

令和4年度（2022年度）

研究紀要

研究主題

「言葉で人とつながり学ぶ力の育成」

～自分の考えを伝えよう～



摂津市立鳥飼東小学校

1. はじめに

梅花の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
平素は、本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、既に皆様もご存知のように、新型コロナウイルスのオミクロン株が今もなお変異を続け、感染力が以前よりも強まる中、政府は「3年ぶりに行動制限を設けず年末年始を過ぎてもかまわない」という方針を発表しました。当然、多くの人々が帰省や旅行など各地を往来した結果、病院や保健所での全数把握はなされなくなったものの、感染拡大（いわゆる「第8波」）の状態に陥り、毎日のように多くの感染者数などが報告されています。

また、政府は5月8日以降、新型コロナウイルス感染症の分類を「2類相当」から「5類」（季節性インフルエンザと同等）へ引き下げることが検討。今春から「原則マスクを外してもよい」という方向性を示すなど、警戒レベルを大幅に引き下げようとしています。

そのような社会情勢の中、今年度の本校における校内研究について簡潔に申し上げますと、1学期に「学習評価の見直し」と授業改善を目的とした「算数のミニ研修会（シエーマ図・タイルの活用方法）」について取り組みました。毎年、教職員が入れ代わる中、教職経験年数の浅い教員に対し、教授技術や教授方法のバトンタッチが課題となっており、同僚性を活かした「効果的な校内研修」に繋がらなかったのではないかと手応えを感じているところです。

また、昨年度の反省を活かし、研究授業の回数を少なくする代わりに中身を充実させるべく取り組みを進めてまいりました。これまでは担任が自習形式で児童を教室に残したまま間を抜けて参観していた為、職員からは「研究授業に集中することが難しい」という意見・感想が出されました。そこで、今年度から研究授業を低・中・高学年毎に1回ずつと絞ることで子どもたちを家に帰した後、互いに落ち着いて授業を参観し合えるよう環境を整備いたしました。勿論、研究授業の回数は減らしても「事前の指導案検討」→「研究授業」→「事後の研究討議」という流れは変えず、これまでどおり研究を進めてまいりました。

「研究テーマに即した授業になっていたか？」ということを常に念頭へ置いて、論点がブレないように話し合いを重ね、外部の講師の先生からも指導・助言を賜りました。しかし、まだまだ至らない点や拙い点があると感じております。是非、ご参会の皆様からも忌憚のないご意見・ご感想を頂戴し、更に改善を重ねてまいりたいと思っております。

結びになりますが、摂津市教育委員会事務局の皆様をはじめ、これまで本校の授業研究に対してご指導・ご助言を賜りました関係者の皆様に、教職員一同、この場をお借りして重ねて感謝申し上げます。

令和5年2月14日
摂津市立鳥飼東小学校
校長 中嶋 和明

2. 本校の概要と特色

1. 学校経営の重点

『 やさしく かしこく たくましく 』

～すべての子どもたちがいきいきと学べる学校～

- (1) 一人ひとりが大切にされ、人間関係づくりができる学校（やさしく）
- (2) 保幼小中一貫教育の中で、学力向上・授業改善ができる学校（かしこく）
- (3) たくましく生きるための健康・体力づくりができる学校（たくましく）

2. 学習の重点

○3. 「研究について」参照

3. 生活指導の重点

《 基本方針 》

- 基本的な生活習慣を身に付け、いきいきと学校生活を送れる子どもに育てる。
 - 友達を大切にし、仲間とともに伸びようとする子どもに育てる。
 - 自分たちの学校を自分たちで良くしていこうとする意識を育てる。
- (1) 子どもの心の居場所をつくり、教職員の温かい心を響かせる。 ⇒ 学級活動
 - (2) 子どもと教師がともに活動する場を重視する。 ⇒ 児童会、委員会活動
 - (3) 異学年での活動を通年で実施し、自治力を高める。 ⇒ 縦わり活動
 - (4) 地域との連携を密にする。 ⇒ すこやかネットGO

4. 健康管理の指導の重点

- 「生きる力」をバランスよく育むため、たくましく生きていける健康、体力の育成に努める。
 - いのちの大切さや、自分の身体について知り、自らを管理できる力をもつ子どもを育てる。
 - 「食育」を行い、給食等を通して望ましい食生活や適切な食事のとり方を培う。
- (1) 情意面からの健康や体力を考える。
 - (2) 指導・支援体制を確立する。
 - (3) 正確な情報等を獲得する。
 - (4) 学校と家庭が連携した食育への取組みの推進を図る。

2022年度 摂津市立第五中学校区全体構想図（グランドデザイン）

〈市のめざす人間像〉

〈市のめざす子ども像を育むために〉

「思いやり」・「奉仕」・「感謝」
「あいさつ」・「節約（環境）」
の心を大切にし、社会のルールを守れる人

「つながる力」を基礎とした
「豊かな心」・「学ぶ力」・「健やかな体」
の育成

第五中学校区のめざす子ども像

自立・自律した児童・生徒の育成

～集団の中で規律を守り、自ら学ぶ活動ができる子ども～

〈第五中学校 学校教育目標〉

- ・支え合える集団作り
- ・心豊かな人間性を培う
- ・進路に明るい展望を持たせる

〈鳥飼小学校 学校教育目標〉

ゆたかな心と智慧ある子どもの育成

〈鳥飼東小学校 学校教育目標〉

「やさしく・かしこく・たくましく」

第五中学校区の取組みの重点

基礎学力の定着 異学年・他校との交流の推進 家庭との連携

第五中学校区の具体的な取組み

学ぶ力の育成

①授業改善の推進

- ・対話的な活動の充実
- ・学びを明確にし、振り返る学習活動と学習意欲の向上
- ・相互参観授業
- ・ICTを活用した授業

②基礎・基本の確実な定着

- ・予習と復習を繰り返す学習
- ・授業のユニバーサルデザイン化
- ・課題に応じた学習形態の実施
- ・相互参観授業
- ・模擬授業＋研究授業

③家庭と取り組む学習習慣づくり

- ・学習準備や学習ルールの徹底
- ・家庭学習の定着と充実

豊かな心と体の育成

①人権・平和教育の推進

- ・学年段階に応じた人権課題

②道徳教育の研究

- ・評価の交流

③児童の主体的活動の推進

- ・価値語運動
- ・異学年での清掃活動（小学校）

④各校の児童・生徒の交流

- ・小中一貫「児童生徒指導交流会」
- ・魅力ある学校づくり調査アンケート
- ・クラブ体験
- ・新中学1年の引継ぎ

信頼される学校づくり

①参観授業・懇談会の実施

- ・土曜・日曜参観の実施

②地域協同行事の推進

- ・凧あげ・ゲーム大会
- ・すこやかネット
- ・民生児童委員による読み聞かせ
- ・地域人材による教育への参画

③HP等、情報発信の活性化

- ・学校だより・HPによる情報発信
- ・家庭学習充実のための取組み
- ・学校教育自己診断の活用

④地域懇談会への参加

- ・PTA 運営委員会への参加

第五中学校区の課題に対する取組み

- ・基礎基本の定着を図るとともに、家庭での宿題実施率を上げることで、学力向上をめざす。
- ・自分の課題やすべきことを自覚し、自ら目的意識を持って取り組むことができるようになる。
- ・他者との関わりの中で、相手を意識することの大切さに気づき、協力する気持ちを育む。

3. 研究について

研究テーマ「言葉で人とつながり学ぶ力の育成」～自分の考えを伝えよう～

主題設定の理由

本年度は、「言葉で人とつながり学ぶ力の育成」を研究テーマにして4年目となる。充実・完成の年とし、伝え合うことで自分の考えが変化したり、相手の考えを理解したりする楽しさ（相手意識をもつ）を知り、学ぶ力がつくことを到達目標としたい。

どの教科でも、研究テーマを意識し、1年を通して取り組んでいく。校内研究は、低学年・中学年・高学年と2学年ペアで行い、2学年で研究教科は統一する。

国語科で言うなら、説明文の要旨や物語の主題を書き、自分の意見を発表・交流する授業。社会科では、教科書から読み取ったことをまとめ、意見交流し、考察する授業。理科では、実験の目的を考え、予想、実験結果の考察を行いまとめ、自分の考えと相手の考えを比較検討する交流の場をつくる授業。算数では、解き方の説明ができるように交流する授業。過去に積み上げてきた国語の研究(物語文・説明文の読解法、思考スキル・思考ツール、単元を通じた学習活動)も活用していく。

低学年では自己表現や自己の考えの前後の比較ができる。

中学年では他者との比較・自分の周りの環境や人と関連づけて考えることができる。

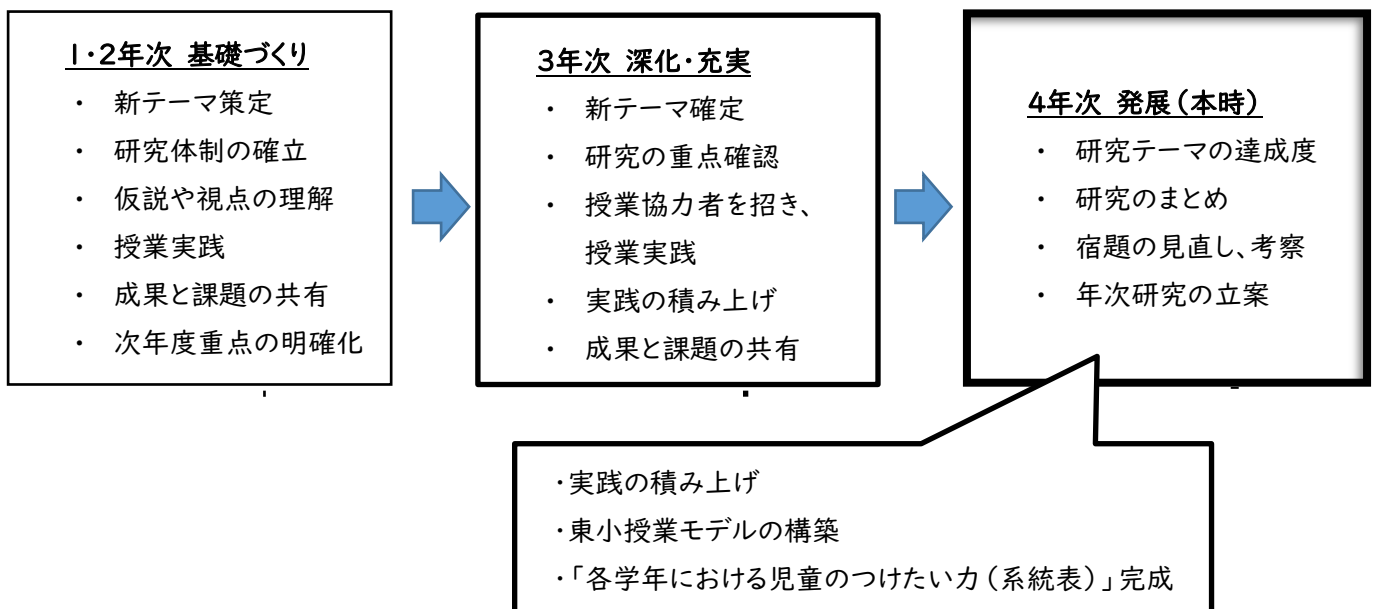
高学年では他者との交流後、考えを再構築・社会や一般とつなげて考えることができる。

という姿をイメージし取り組んできたが、まだ、達成できていない。

達成できていない要因として、「自分の考えをもつ」ことができても、発表することに自信を持たず、伝えることができないことがあげられる。(話し合うことは好きであるという項目のアンケート結果は約90%であるが、自分の考えを持ち伝えることができるというアンケート項目は、47%ということからわかる。)

友だちの話を聞く・話をするという土壌(集団づくり)は育ってきているが、自分の考えをもつこと、また考えをもっていても伝える自信がないということが課題である。この課題を克服するために、授業の内容の改善と、宿題の見直し(家庭学習の強化)をはかり、書く力(語彙力・文法など)の育成に努めなければ達成できないと考えられる。

以上のことから、令和4年度も考えを書くことの向上をめざし、交流することを研究の柱とすえ、主題及び研究仮説を実証していく。



学校教育目標
「やさしく かしこく たくましく」

めざす子ども像
友だちを大切にする子
自分から学んでいく子
豊かな心と強い体をもつ子

児童の課題
自分の意見を考え、表現することが苦手
考えたことを伝えることが苦手
相手意識を持つことが苦手

研究主題
「言葉で人とつながり学ぶ力の育成」
～自分の考えを伝えよう～

研究仮説
「自分の考えをもつ時間をつくり、それを友だちと交流する」ことによって、相手意識を深め、学ぶ力を育てることができるだろう。

研究の視点①
・自分の考えを構築するための手立てが効果的であったか。

研究の視点②
・主体的に交流したくなるような環境が作られ、相手意識のある学習活動になっているか。

研究体制

- ・学力向上プランに沿って、計画的に進める。
- ・検証は、PDCAサイクルに基づいて行う。
- ・低・中・高学年部に校内研究担当が入り、指導案検討を行う。
- ・研究授業の事前研修(模擬授業+交流会)を行い現状を把握し合う。
- ・研究授業の事後で研究協議を行う。

授業実践のPDCAサイクル

Plan
事前
(指導案検討会)

Do(研究授業)

Check
事後
(研究協議)

Action(改善)

研究の進め方

(1)研究発表会・・・3 学期に実施する。

全体会では研究の経過報告を行う。

(2)研究授業

2 学期・・・2 学年 3 学期・・・1 学年

教科は研究授業を行う学年で検討、時期については、年度当初に協議を行い、決定する。

(3)指導案検討会(事前研)

学年部・研究担当を中心に、研究を進める。指導案検討会(事前研)を研究授業前に行い、協議・模擬授業等行う。

(4)研究協議(事後研)

研究についての検証の場とする。授業における児童の学習活動の質、量はどうか、課題は克服されたか、改善点は何か、等研究の積み上げになるように行う。

研究授業では、研究の視点①②の観点で協議を行う。

研修会では、テーマとゴール設定し、まとめを行い、全体で共有する。

(5)アンケート

学期ごとに児童アンケート、教師アンケートを実施する。分析結果を必ず学年に返す。

(6)授業交流

新任研(6/29)も合わせて実施。特に1学期は、参観交流に取り組む。

1 学期、3 学期に相互授業参観実施

(7)自主研修

算数の授業づくり(5/6 シェーマ図、6/28 タイルの活用)、学級経営、相談会等、有志の自主研修を行う。校内研としては扱わないが、行事予定に入れる。

仮説に基づく取組み

【 授業づくり 】

- 逆向き設計の単元計画を児童と共有し、主体的に取り組めるようにする。
- 「めあて」「ふり返り」を大切に、主体的な学びのある授業づくりをめざす。
- 自分の考えをもつ時間をつくる。
- 交流する時間をつくる。

※上記2つについては、クラスの現状に合わせて、手立てをもって行う。

※評価、単元計画について研修あり。

【 集団づくり(学級づくり) 】

- 年度当初に i-check をもとに引き継ぎを行う。
- 集団づくりについての校内研を行う。
- 指標となるものを実施する。i-check→7月、i-check→12月。2つは相関性あり。
- 学期ごとに作成する「学年のまとめ」の中で集団づくりについての取組みを記入する。その際、i-check のデータを提示し、現状や変化を分析したものをまとめる。

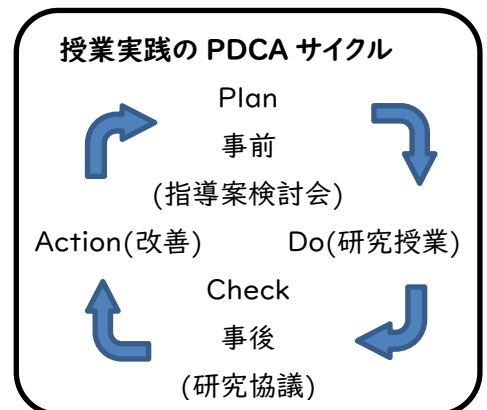
まとめ

本年度は、研究を進めるにあたり、日々の授業を大切にしていけることを第一とした。そこでまず年度始めに評価を念頭に置いた逆設計の単元づくりについての校内研を行い、職員の意思一致をはかるところから始めた。研究授業は年3本とし、職員全員が研究授業に参加できる体制をとることで、1本1本の研究授業を丁寧に進めることができた。大槻指導主事を講師としてお招きし、年間を通して指導・助言をいただけたことは、大きな糧となった。そのほか相互授業参観やミニ研修などで、教員の授業力の向上に向けた取り組みを行ってきた。合わせて、子どもたちの学力向上のためにトリトン算数や宿題の交流、見直しなども行った。今年度の取組みの成果と課題を本校アンケートや学力定着度調査の結果から丁寧に考察し、来年度の研究につなげていきたい。

4. 校内研究

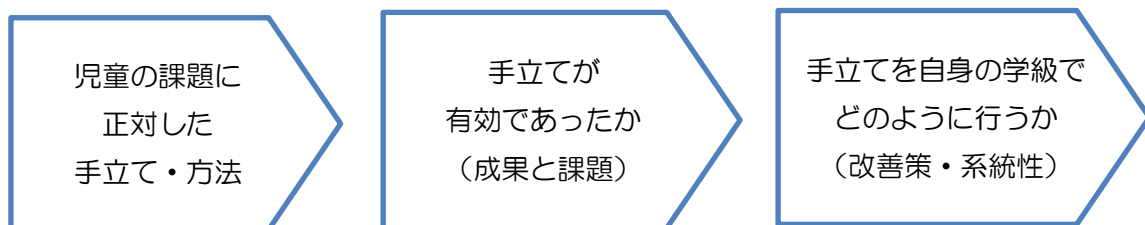
○研究体制

- ・ 学力向上プランに沿って、計画的に進める。
- ・ 検証は、PDCA サイクルに基づいて行う。
- ・ 低・中・高学年部に校内研究担当が入り、指導案検討を行う。
- ・ 研究授業の事前と事後で研究協議を行う。



事後研（研究協議）

手立て・方法→その手立てが有効であったか→改善策・系統性の順で検討を行う。



○研究協議 ケースⅠ

【4年生】国語科「クラスみんなで決めるには」話し合い活動について

児童の課題に正対した手立て・方法

- ・ 課題意識を想起させるアンケートの実施
- ・ 比較ができるようなグループ分けの設定
- ・ 話し合いにおけるそれぞれの立場の役割や自分の気づきを整理するためのワークシート
- ・ ロールモデルとなる動画の活用

手立てが有効であったか（成果と課題）

- ・ 1回目の話し合いの後、ロールモデルとなる動画を視聴し、良い点を整理したため、2回目の話し合いで大きな変化が見られた。
- ・ 学級内の2グループの比較をおこなうことで、お互いの違いからの気づきが生まれた。動画をピンポイントで止めながら比較したことで、ワークシートに沢山の意見を書くことができていた。
- ・ ワークシートに書かれているカテゴリーが多く、整理して記入するのが難しかった。意見を十分に出させてからカテゴライズをおこなうのも一つ。

手立てを自身の学級でどのように行うか（改善策・系統性）

- ・ 自分で、もしくは少人数でこれまで学習の振り返りをおこなう時間をもつ。
- ・ 教員の持っていきたい意識（授業）の流れと子どもの意識の流れ、どこまで寄り添えるかという視点をもつ。
- ・ ワークシートへのコメントや線の記入は、意図をもっておこなう。また、その意図を児童にも共有する。

○大槻指導主事より、講評及び指導・助言

指導事項がしっかり読み込まれ、学級の実態に沿った内容となっており、試行錯誤が重ねられての指導だった。また、聞く姿勢や参加する姿勢、書くことなど、集団としての日常の指導の積み重ねを見ることができた。

今回学級での話し合い活動ということで、支援学級在籍児童も参加していた。その際、支援学級での取り組みを共有、通常学級担任と支援学級担任とが連携し、それぞれの視点をもって協働することが大切。

ワークシートをチェックした際のコメントや線、花丸などは意図をもっておこなう。また、先生はなぜそう書いたのか、何のサインなのかを児童に説明しておく、授業時のふりかえりや交流に活用できる。児童自身がじっくり考え、交流する時間を増すために、前時のワークシートの確認の仕方や時間設定の工夫が必要。

○研究協議 ケース 2

【6年生】算数科「比例の関係をくわしく調べよう」

児童の課題に正対した手立て・方法

- ・ ホワイトボードを活用した意見交流
- ・ 算数と日常生活の結びつきの視点から身近な題材の設定
- ・ 「情報過多」(多くの情報から必要なものを、考え、選ぶ)の設定

手立てが有効であったか(成果と課題)

- ・ ホワイトボードを使用することで意見の整理・可視化ができ、他のグループとの比較もおこないやすくなっていた。
- ・ 情報過多な設定をしたことで、必然的に自分の考えを伝えあうことにつながっていた。
- ・ 想定した以上に理解して答えにつながる計算をしていたが、比例の関係という考えに至らなかった。

手立てを自身の学級でどのように行うか(改善策・系統性)

- ・ ノートの取り方、話し合いや発表の仕方など授業のルールを徹底する。
- ・ 自分の考えや意見に根拠をもつことを大切にする。
- ・ 交流のルールのようなものを作り、話し合える環境づくり・手立てを考える。

○大槻指導主事より、講評及び指導・助言

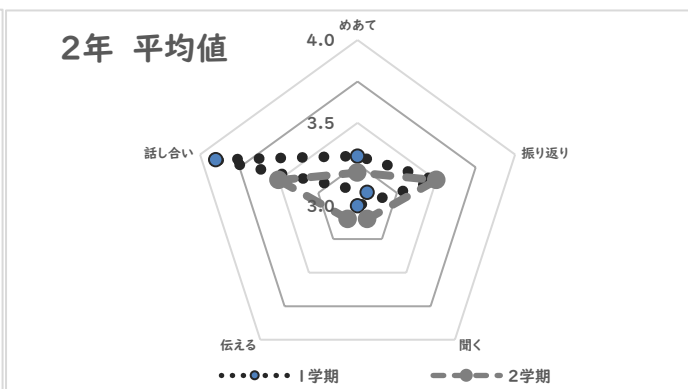
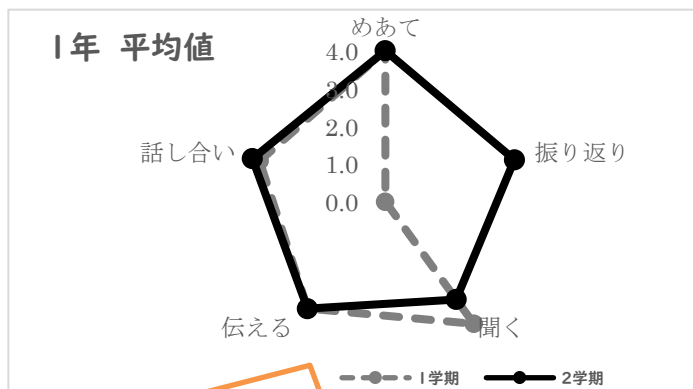
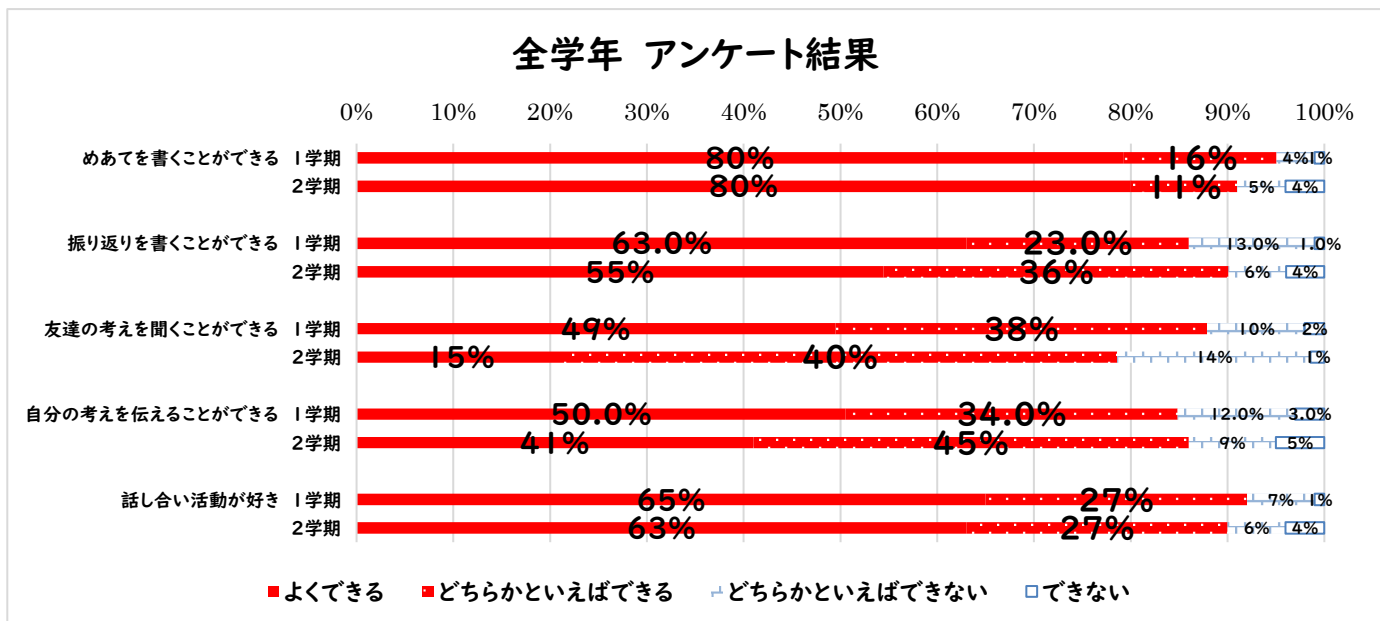
ノートづくりのルールが徹底している、コメントがしっかり書かれているなど、授業者が児童の実態をよく理解していた。これは“先生が自分のことを見てくれる、わかってくれる”という土台となり、これがあるからこそ、児童が前向きな姿勢で授業に臨むことができる。また、一人で考える時間に自分の主張を書くことができ、話し合いの習慣も身についていた。

発表は心理的な安定があってこそそのものなので、前に立って発表する前にグループ内でまず練習するなど、慣れさせる必要がある。グループは意図的につくる方が良い。

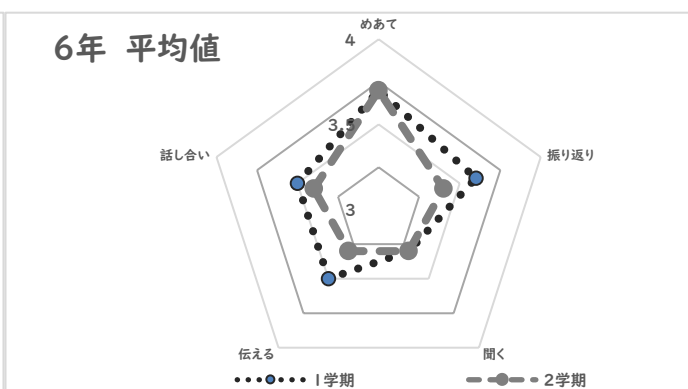
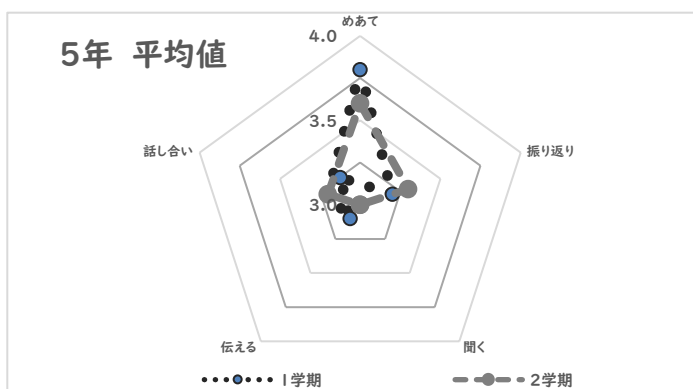
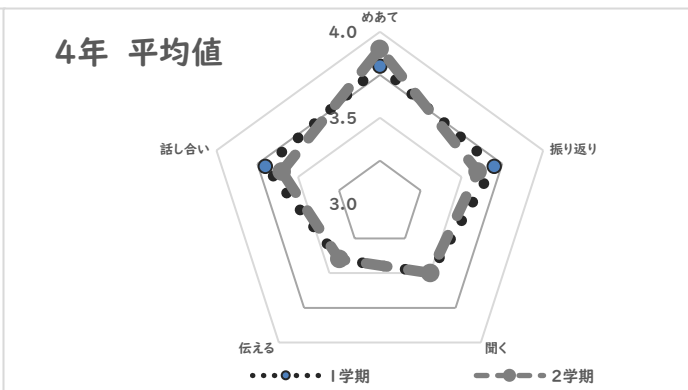
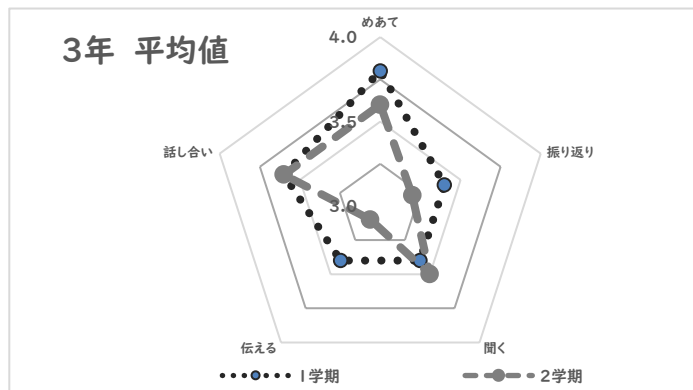
目的に沿った交流方法もあるが、段階を踏まえた練習が必要。学校として話し合いの土台、文化はあるので、3学期の1年生の研究授業ではその基礎の部分を大切に進めてほしい。



5. 児童アンケートからみる成果と課題・来年度に向けて



1年生は、最小値を0に設定。1学期、ふりかえりを書かせていないため。



【成果と課題】

本校では、1学期と2学期に全校児童を対象としたアンケートを行っている。

- 「1. めあてを書くことができる」
- 「2. ふりかえりを書くことができる」
- 「3. 友だちの考えを聞くことができる (1,2年生)」
- 「3. 自分の考えと友だちの考えを比べて聞くことができる (3年生以上)」
- 「4. 自分の考えを伝えることができる」
- 「5. 話し合い活動は好きですか」

本校の研究テーマに沿って、全教科、全授業において「めあて」とめあてに対応した「振り返り」を意識した授業づくりを行ってきたことから、「1. めあてを書くことができる」「2. 振り返りをかくことができる」の2項目は、一定数できていると思っている児童がいる。これは、「めあて」を書くことで、その時間の見通しを持って学習し、また「振り返り」でめあてが達成できたかどうかを自分で振り返ることが当たり前になってきていると考えられる。

しかし、「4. 自分の考えを伝えることができる」「5. 話し合い活動は好きですか」の項目は学期が進むにつれて、苦手意識を持つ児童が増えている。一方で教員のアンケートでは、話し合い活動を取り入れているという項目が高くなっている。これらの教員と児童の意識の差が現状の課題と捉えることができる。と同時に、学級、学年集団とも深い関わりがあると考えられる。したがって、集団づくりのアンケート結果とともに考察をし、学力、集団づくりをつなげた取組みが必要である。

【来年度に向けて】

今年度に引き続き「めあて」「振り返り」を意識した授業づくりを継続していく。

「めあて」は、その時間に付けたい力を明確にする。振り返りは、めあてが達成できたかを児童が自分で自己評価できるよう、より工夫した設定をしていく。

また、さまざまな場面で「自分の考えを持つ」「自分の考えを意思表示する」機会を作っていく。それは、授業での話し合い活動のみならず、日々の学級活動や取組みの中でも意識していく必要がある。

「話し合い活動」の基本は「聴く」ことにある。そこで、友だちの考えを聴く機会を多く取り入れていく。これも、授業での活動以外にも、1分間スピーチや元気調べなど、様々な場面で友だちの考えや思いを聴くことの意味や楽しさを体験させたい。

このように、学力、集団づくりの両面から取組みを進めていく必要があると考える。

1年生 取組み

1. 2学期の取組み

【授業づくり】

研究仮説である「自分の考えをもつ時間をつくり、それを友だちと交流する」を実践するために、全教科において自分の考えをもち、ペアで聞き合いをしたり、同じところを探しながら交流する活動を多く取り入れた。また学習を受け身ではなく、自分から進んですることができるような活動を行った。

ペアでの交流

算数の授業では、計算の仕方を個人で考えそれをペアで説明し合う活動を行った。苦手な児童と得意な児童をペアにさせ、「どちらも説明できるようになる。」というミッションを与えた。得意な児童は、苦手な児童に分かるように具体物や反具体物を使って説明し、苦手な児童は、聞いた説明をアウトプットしていた。何度も友だちの説明を聞いたり、分からないことを質問したりして、理解しようとする児童の様子が見られた。



ふりかえりでは「友だちの話を聞いてわかった。」「〇〇ちゃんの考えがよかった。」などの肯定的なことを書く児童も見られた。また、全ての教科で、授業中にわからないことや困ったことがあれば友だちにいつでも聞けるように交流する場面を多く取り入れた。



グループでの学習

音楽や体育の授業では単元ごとにリーダーを設け、班全員がめあてを達成できるように教え合う時間を設定した。



班で練習した成果を
みんなの前で
発表している。

班員の前に立ち、
自分自身が見本となり、
体を使って教えている。



一人ひとりの伸びを視覚化する

この1年1組ではテストや日々の学習で友だちと自分を比較し、一喜一憂する児童が多い。他人ではなく、自分自身の頑張りに目を向けられるように前のテストからの伸びを教室に掲示することにした。プレテストより1点でも点数が高ければぐんぐんポイントがもらえる。そのぐんぐんポイントをクラスのみinnで100ポイント集めることを目標に活動した。他のだれかではなく、前の自分がライバルになるため、「〇〇くん、がんばろう。」「みんな、もう少しで〇〇ポイントやで。」「一人あと〇こで100だ。」など前向きで他の友だちと比較しないような言葉かけも見られるようになった。



また、自分から復習のプリントを手にとって、「先生。やってきたで。丸付けて。」など自主的に学習に取り組む姿も見られた。

2. 成果

- ・自分の考えが持てない児童も友だちの考えを聞いたり、見たりすることで自分の考えを構築することができるようになった。
- ・クラスの中で発表したり、話したりすることを積極的に行う児童が増えた。
- ・自分から学習する児童も増えてきた。

3. 課題

- ・ペアでの交流など苦手な児童が受け身になってしまうことも多くあった。
 - ・グループ学習では、リーダーになる児童が固定してしまうこともあった。
- 学習が苦手と感じている児童の活躍の場を増やしていくことが必要ではないか。
- ・自分の意見を言う・話すことが重視され、相手に伝わるように話す児童はまだ少ない。
- 発達段階的に高度なことだが、相手に伝わるように話すにはどうしたらいいか考えさせるなど「相手意識」をもつことができるように声掛け・指導をする。

2年生 取組み

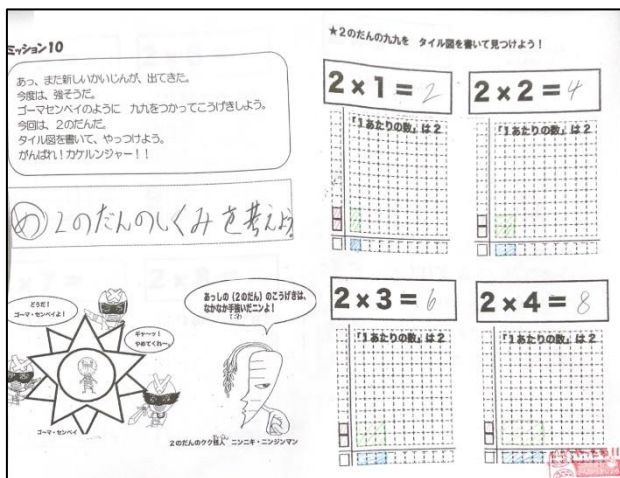
1. 年間の取組み

【授業づくり】

研究仮説である『学習活動の中で、自分の考えを持つ時間をつくり、それを友だちと交流する』ことによって、相手意識を深め学ぶ力を育てることができる」を実現するために、まずは全員が参加できるように導入を工夫したり具体物を活用したりして、自分の考えを生み出しやすい授業を組み立てた。そして、さまざまな場面で自分の考えを見せたり発表したりでき、友だちの考えを知ることができる交流を取り入れた。

1学期：「楽しそう」「できそう」

算数では单元ごとにストーリー性をもたせた教材を準備した。「～ができるようになってくちや」と、学習に入り込む児童の姿が見られた。自分の考えを書く前には、「〇〇すればできそう」とみんなで自分の考えをもつヒントとなる見通しを出し合ってから考えるようにした。最初は考えることに自信がなかった児童も、少しずついろいろな見方で考えられるようになっていった。また考えがなかなか浮かばなかった児童も、友だちの考えをいくつか聞くと「そういうことか」と納得する様子だった。特に長さや水のかさなど、量感をイメージしづらい場合は、具体物を使ってグループで活動し、みんなで理解できるようにした。



10のまとまりを作ろう!



会話の中で、さまざまな気づきがあるグループ活動



こぼれたら正確に測れないから慎重に!

2学期：様々な交流方法にチャレンジ

1学期に自分の力で課題をクリアできるように考える時間を多く確保したことで、ほかの人がどう考えているのかを知りたくなる児童が多くなった。そこで、タブレットを活用し、友だちとの意見交流をよりスムーズにできるようにした。思考ツールを使いながら考えを整理していったり友だちの考えを共有したりすることで、相手を意識した学習ができるようになった。ふりかえりには、「〇〇さんの考えは自分にはなかった」「～のところが自分とよく似ていると思った」と、自分と他者を比べる考えも持てるようになった。



登場人物と自分、友だちの意見と自分を比べて考えた。

音読劇アドリブのセリフや動きも入れて発表し、登場人物の気持ちを深く考えた。

7	6	5	4	3	2	1	学しゆう
はっぴよう	自分とくらべる	心にのこったところをえらぶ	わけを考える	したこと・言ったことを書き出す	人ぶつを考える	かんそうを書く	ふりかえり
けいしくんがすこしやってみることにしようと思った。	しゅくだいをしゅうちょうできないところがにきました。	しゅくだいをしゅうちょうできないところがにきました。	あいての、気持ちになるのはむずかしい。	すみれちゃんは、オレとちよとて。	かりんちゃんのけそうとたけとやめてやさしい。	すみれちゃんは、かりんちゃんのおもいでやさしい。	

2. 成果

- ・自分が思い浮かばなかったアイデアが出ると、素直に「お～」という声が出た。「〇〇さんの考えに納得した」と、自分の考えがあるからこそ自分の他者と比べて似ているところや違うところを見つけようとする姿が見られた。
- ・国語の音読発表会や体育の作戦会議をグループでするなど、「より理想に近づくためには」というめあてに沿った話し合いをしたことで、「もっと～すればよかった」「～すればうまくいった」とふり返る児童もいて、友だちの意見や発表に刺激を受けて、自分の考えを整理する様子が見られた。

3. 課題

- ・自分の考えを持ってない児童へ、どこまでの支援が適切か。見通しを持たせようとヒントを与えすぎてしまうと、正解を探してしまう。またほかの児童の自由な考えを狭めてしまうことにもつながってしまうと感じた。
- ・自分自身で学ぶ力を育てることと、自己肯定感や学習意欲は大きなつながりがあるように感じた。どの子どもたちも自信をもって学べるようにしていきたい。

3年生 取組み

1. 年間の取組み

【授業づくり】

研究仮説である『学習活動の中で、自分の考えを持つ時間をつくり、それを友だちと交流する』ことによって、相手意識を深め学ぶ力を育てることができる」を実現するために、班活動を導入し、学級活動や体育で、それぞれの立場から、さまざまな意見を交流する場面をつくった。

学習規律では、一人一人が安心して学ぶことができる環境づくりとして、「目と足と心を向けて話を聞くこと」を重点的に指導した。「目」と「足」と「心」を「3ビーム」と名付け、先生やクラスの仲間が話す場面では、「3ビーム」と声をかけ、話し手の方向を向くように、指導をした。

学力向上では、一人で考える時間を確保するとともに、授業の中で交流の必然性をつくり、交流することを促した。

算数科では、自分の考えをもつことができるように、本時の内容につながる復習問題を毎時間行った。その後、問題を自力解決することが難しい児童を黒板前に集め、板書を基に集団で話し合いを行った。また、毎日九九やわり算の50問プリントを行った。一か月間、同じプリントに取り組ませることで、自信の成長を感じ取ることができるようにした。

体育科では、練習場所を多く準備して、それぞれ自分が課題だと感じる練習を自由にできるようにした。その際、ポイントをあらかじめ全員に周知することで、相手がより上達するためには、どのようなアドバイスをすればよいか考えさせる環境をつくった。



2. 成果

相手意識をもつという点においては、子どもたちが自分たちで「3チーム」と声をかけ、話し手の立場を考えて行動することが増えた。算数科においては、相手が「一緒に考えてほしい」と声をかけるまでは安易に解法を教えないようになった。また、体育では、勝敗のつくグループ競技において全員が気持ちよく遊べるようなルール作りや、「次がんばろう」「いっしょに練習して上手くなろう」といった前向きな声掛けができるようになった。

3. 課題

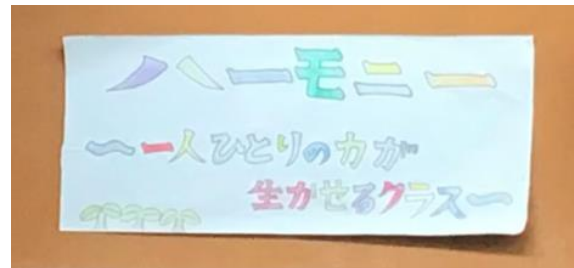
課題としては、まだまだ相手意識を深めきれない点が挙げられる。具体的には、3チームを用いた聞く姿勢作りにおいて、相手が自身の話に興味をもっていなくても「3チーム」を使って話を聞かせようとする場面があった。また、衝動的に相手を傷つける言葉や行動をとってしまうことでトラブルにつながることも課題として挙げられる。

今後も相手の気持ちを考えさせることを通じて相手意識を育み、改善につなげていきたい。

4年生 取組み

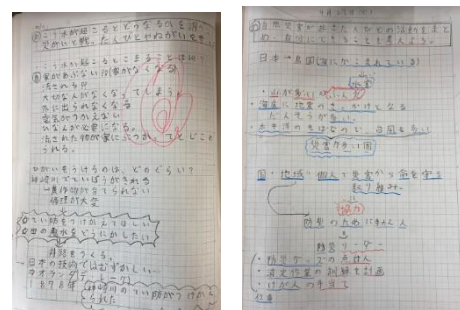
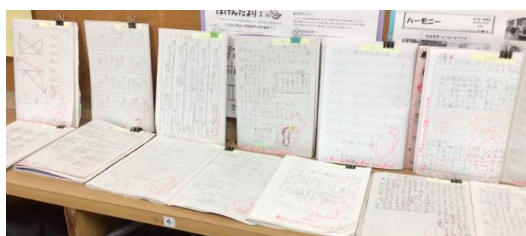
1. 1・2学期の取組み

「言葉で人とつながり学ぶ力の育成」～自分の考えを伝えよう～という研究テーマを進めるにあたって、4年生はまず1学期最初に「互いの良さを活かす学年」という意識を児童にももってもらえるように、学年目標を、「ハーモニー ～一人ひとりの力が生かせるクラス」にした。また、学校全体で取り組んでいる「PBIS」も、児童と一緒に内容を考え、全員がその内容を意識して学校生活を送れるように、朝の会では、その中から児童が毎朝一つの目標を提示し、帰りの会では、その振り返りを全員で行うという習慣を続けていった。



学習規律においては、高学年に向けてということで、学習の基盤を作るためには、①授業を大切にすること②話を聞くこと、を提示し、それが相手意識につながることを体験の継続によって身に付けていけるように心掛けて声かけを行っていった。また、児童どうしても、邪魔をされて困ったり、注意する時の言葉の内容を意識しながら取り組めるように、声掛けの良さを具体的に認めたり、なぜ困ったのかを相手に伝える機会をつくった。他にも、様々な先生方が授業で関わってくださっていることを確認し、どの先生に対しても同じように学習規律を守ることの必要性を感じることができるよう、関わってくださる先生と学級で取り組んでいる内容の情報共有を繰り返し行ってきた。

学力向上では、授業の中でミニ計算を繰り返し行い、漢字は漢字スキルの中から新しく習得する漢字の多様な熟語を授業の中で学習した後、事前伝達無しのミニテストや宿題で様々な形で学習できる機会を作り、その都度できなかつた熟語を把握させ、それを繰り返し漢字ノートに練習するという取り組みを行った。また、字の乱雑さが目立つ児童の改善に努めるため、日々の授業の中で各教科の「めあて」の書き方の統一や読みやすさ、見やすさのための行間の取り方などを見童のノートを提示しながら、指導を続けてきた。他にも、週末の自主学習を継続して行い、各児童のノートの良さや驚きなどを、児童と共有できるように、ノートの見やすさや内容の充実さを中心に選択したものを、教室の後ろに常に提示しておくようにした。その結果、児童は互いのノートを観察する姿が多くみられるようになった。



他にも、タブレットを活用し、授業の内容によってノートとタブレットの活用を使い分けてきた。感想文や新聞の作成では、タブレットで下書きをすることで、字が乱雑で自分の字を読み返せずに、作業が止まってしまうという児童が少なくなることを目指してきた。書くことが苦手な児童も、書き直しの負担を減らすことで作業のばらつきを改善していくことができた。

おわり七宝は、愛知県で作られています。一番最初に作られたのが古代ギリシャで作られています。各地で本格的に作られたのが、桃山時代から江戸時代初期です。おわり七宝の持ちようは、図がらを書く時に使う銀線です。すみで下絵を描いた後、下絵にそってとくしゆなりのでそのごうわ葉を使つて色付けますこれが持ちようです。おわり七宝の作り方は、①下絵を書きます②炭で下書きをなぞつてのりをつけます。③線と線の間にごうわ葉をさしていきます。④700から800度のかまでも何回も焼き、仕上げにおうとつの残る表面をとぎます。これでおわり七宝の完成です。このようにおわり七宝の持ちようを皆さんに知ってもらいたいです。

漆器は和歌山県で生産されている伝統工芸品です。漆器生産が始まったのは飛鳥・奈良時代において、仏具や寺院で漆が、使用されるようになり、そこで国が漆器生産をさるようになり、それが漆器生産の始まりです。食器を変えれば食卓が変化します優しい漆器は日本食のスタイルに適しています。さらに漆で塗装された漆器は、酸のほか、アルカリ、アルコール、塩分にも強く、耐久性に優れていることが特徴です。また、漆を塗り重ねるほどに頑丈になるほか万が一欠けてしまつても塗り直して修理修理することもでき、長く使用できます。作り方はたつた五ステップで作れちゃいます。まず、木地塗りをし、次に、下地塗りをしその次に、中塗りをし、それから、上塗りをし最後に加飾をすることができます。このように、漆器は日本食に適していて、漆器は昔から伝わる伝統工芸品なのです。

2. 成果

「相手意識をもたせる」ということに中心をおいて学級づくりを行い、授業では班活動を多く取り入れた。また、それぞれの成果物を互いに確認しあつてきたことで、自分の行動や発言に対して、相手が反応するという体験を繰り返してきた。その結果、現在では、お互いを気にし合い、強い注意ではなく、あたたかい声掛けができる児童が増えてきた。また、自己実現ができるように、自分の目標設定をする機会を作り、自分自身の目標に向かって努力できたかを振り返れるようにした結果、それぞれが自分自身の行動や目標に対してしっかり向きあい、達成感を感じることができるようになってきた。「それぞれの違いが生み出す良い空間」という感覚が芽生えてきている様子がうかがえる。特に国語で行った「話し合い活動」では、自分たちの普段の行動を客観的に見ることで、どのように自分たちの姿が映っているのかを確認することができ、その学習がクラスに良い環境を作るためには、一人ひとりの力が必要であるということの自覚につながつてきたように感じている。

3. 課題

学級の雰囲気や授業に向かう態度は良い方向に向いているようではあるが、まだ学力的、心情的に高学年として行動していくには達していない児童もおり、そのような児童が疎外感や孤独感を感じていけないクラスであり続ける必要がある。そのためには、日々の学習力をあげていくことと、自分自身を認め向上心をもたせるための取り組みを継続して行うことが大切であると考へている。日々の授業で児童の心と学力の成長が培われるように、学校全体で取り組む研究テーマ「言葉で人とつながり学ぶ力の育成」～自分の考えを伝えよう』に向かって、様々な手立てを他教員と協力しながらすすめていきたい。

5年生 取組み

1. 年間の取組み

2 学期当初に見られた課題

- ・ 学習意欲がない。
- ・ 九九等、基礎・基本の学習が抜けてしまっている。
- ・ あきらめてしまっている。
- ・ ノートを開こうとしない。
- ・ ノート、プリント、宿題等を提出しない。
- ・ 話を黙って聞けない。
- ・ 手遊びがひどい。(ねりけし作り、のり、落書き等)
- ・ 学習に関係のない話をしてしまう。
- ・ 立ち歩き等で1時間座ってられない。

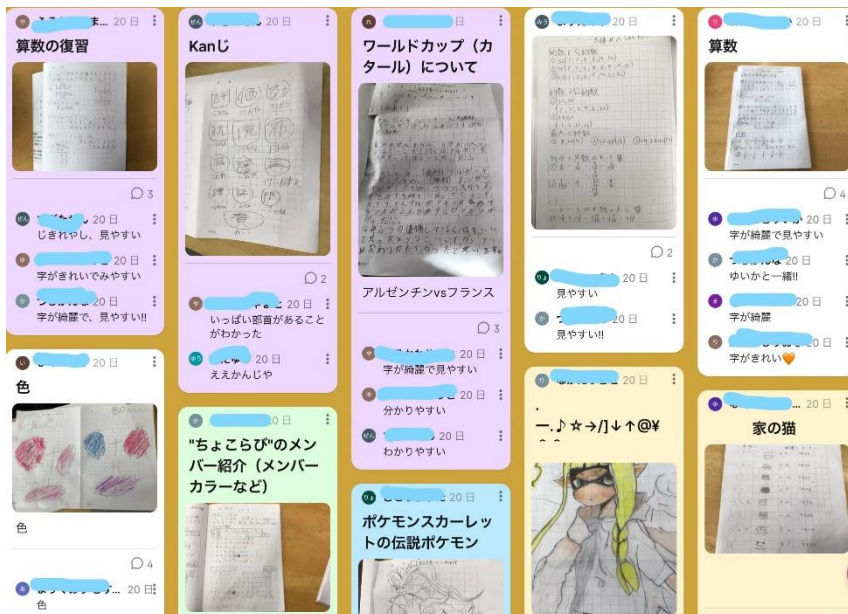
学習規律の乱れ、とにかく授業が成り立たない状態であった。このような状況の中では、研究仮説である「自分の考えをもつ時間をつくり、それを友だちと交流する」授業を実践することができなかった。まずは、学習規律を入れ直すこと、学習意欲を持たせること、授業を受ける上で当たり前の授業態度になるよう児童にアプローチを始めた。そのためには、とりわけ「友だちとの交流」は実態として難易度が高いと考え、講義型の全体指導の中で、「自分の考えをもつ」に重点をおき取組みを進めた。

基礎基本の定着のために

- ・ さかのぼり学習 漢字・九九
 - ・ 視写 聞き取り
 - ・ 45分を細分化したユニット学習
 - ・ ロイロノートを活用して音読練習
 - ・ 個別の支援（学習サポーター）
 - ・ 個別の補習
 - ・ 宿題の工夫
- 漢字→次の日同じ小テスト
算数→次の日授業で解説
音読に変えて、
プリントの裏に読み取り問題を作成
数名別課題対応

考えの構築のために（交流に向けて）

- ・ ノートに考えを書かせる
- ・ 書き出したくなるように発問を工夫する
- ・ 予想が立てられない児童は、選択式・もしくは友だちのモデル発言をまねる
- ・ 書いたことを確認し合う
- ・ padlet の活用 作品・自分の意見や考えを共有しコメントを書き込み合う
- ・ ロイロノートの活用 国語・算数で考えの共有
- ・ 話し合いの流れ、意見の流れを板書し、何について話を進めているのか視覚的にわかりやすくする



Padletで成果物、ノート、
考えや意見の交流。
児童は、友だちの成果物
や意見に対して、コメントを
書き込んでいく。
リアルタイムでの共有・交流
が可能。

2. 成果・課題

何よりも授業を成立させること、学習に向かわせること、規律をもう一度入れていくことに時間がかかった。研究テーマに沿った取組みの追求まではできなかったのが現状である。グループでの学習や交流は、中々成立せず、まずは、全体指導、講義型の授業形態で授業が成立できるようにした。

その中で、教師主導の意見交流や、Padletを用いた考えの共有は、全員とまではいかないまでも「交流」が数回できたのではないかと思う。

タブレットを使うにしても、「制限」が必要で、全てをタブレットというわけにはいかず、従来型のノートへの記述の必要性を本クラスの児童には感じた。大切にすることは、従来通りにめあてとふりかえり、問題とそれに対する予想、特に問いは児童が意欲的に考えることができるように、オープクエッションとクローズドクエッションを授業展開によって使い分けた。

2学期後半より、通常通り授業ができる時間が増えたが、日によって、時間によって、キーマンとなる児童の調子によって、授業の成否が左右され、油断ならない状況だった。それでも、粘り強く一つひとつの授業の大切さを訴えること、毅然と対応すること、個別のフォローをすること、シンプルな授業を計画すること、見通しをもてる授業展開にすること、等で一定の改善は見ることができた。サポーターの先生方はじめ、学年に関わる先生方の力を借りながら粘り強く児童に訴えたこと、学級・三者の懇談、フリー参観を経て保護者に協力を求めることを平行して行ったことで少しずつ、前向きに取り組む児童が増えたと感じる。

3学期は、研究の視点である「主体的に交流したくなる環境づくり」において、児童同士をつなげる活動にも少しずつではあるが、着手できた。1年生、2年生に協力を得ながら、高学年としての自己有用感を高めた2学期に引き続き、3学期は、学級の友だち同士で良さやがんばりに気づく、認め合う取組みを進めた。2学期当初にたてた学級目標に向かって、行動モデルを示し、「GOODカード」に記し、子どもたち同士でカードを交換しながら、良さやがんばりを認め合うという形で強化していった。

6年生 取組み

1. 年間の取組み

6年生は、自分の考えを学級の中で発表することに対して抵抗を感じている児童が多い学年である。そのため授業中に発表をする児童が固定化しているのが課題であった。おそらくそれは、子どもたち自身が自分の意見に自信を持っていないことが原因であると考えられた。ただ、その一方でどんな活動に対しても前向きに取り組むことのできる児童は多く、友だちとの話し合いなど少人数での意見交換はとても活発にできる学級である。また、学習につまずいている児童がいれば、気にかけて手助けすることもできる。

どんな意見であっても自分の考えとして自信をもって表現できるようになって欲しい、どんな意見であっても他人の意見を一旦受け止め、そして自分なりの考えを返して欲しい、そんな温かい学習集団をめざして一年間取り組んだ。

意見交流のルール



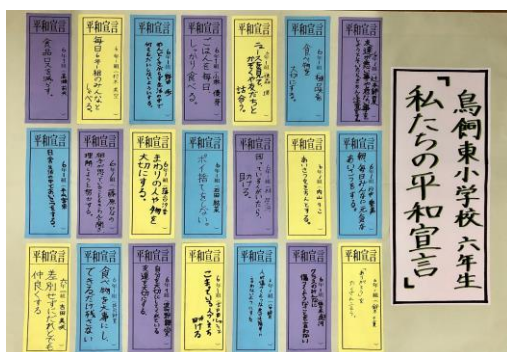
なかなか発言できない子どもたちが互いの考えを知る手立てとして、ハンドサインを取り入れた。全員がグーになることを目標にしつつ、自信がない人も、助けてあげたい人も、発表とは違う形で自分の考えを伝えた。「言葉で」ではないが、まずは自分の考えを発信するきっかけとなった。

異年齢の交流活動

最高学年である6年生が、年下の児童のことを気遣いながら主体的に遊びの内容を企画したり、準備したりすることで生まれる喜びを感じることで、自分たちの自信へとつなげて欲しいと願い継続的に取り組んだ。1年生との交流あそびや給食・掃除のお手伝い、3年生への掃除指導など、自分たちも楽しみながら、頼りにしてもらえる喜びをたくさん感じることができた。交流後にはたくさんの感謝のお手紙ももらった。



平和学習



10月の広島への修学旅行に向けて、平和学習の取組みを進めた。事前に様々な教材を活用して平和や戦争のことを学び、実際に広島で平和への思いを確認し、学校に戻ってから自分の考えを平和新聞としてまとめた。また、全員の思いを動画に編集し、平和集会では全校児童への発信も行った。

小小交流

中学校で同じ学年になる鳥飼小学校の6年生との交流を2回行った。6年間、単学級で育ってきた本校児童は、人間関係の固定化や異集団を受け入れるのに時間がかかるなどの課題もある。目前に迫る中学校生活のスタートを視野に入れて取り組んだ。



2. 成果

様々な取組みを通して、相手に気持ちを伝えることの大切さを感じる児童が増えてきた。自分はどんなことを考えたかを伝えようと手を挙げる。またはノートに書いて自分の考えを表現する児童が出てきている。自分の意見を発信することで、新しい発見がある。友だちに認めてもらうことが嬉しい。そういったことに気づき始めていると感じる。そういった児童が少しでも増えていくように継続して取り組んでいきたい。

3. 課題

まだまだ伝える言葉選びで悩み発言ができない、発言したことに対する相手の反応を考え発言できていない児童が多い。また、友だちの発言に対しての適切な反応が分からず、無反応になることもある。それがさらに発言しにくい雰囲気を作り出していると感じた。間違ってもいいという安心感をクラス全体で出すために、「発言している人の方を見る。」「発言に対してうなづく、首を振る」「発言に対してなるほどと返答する。」といった受け手の基本的な動作を練習していかなければならないと感じた。そうすることで授業に対する参加意識も向上し、学習効率の向上も見込めるのではないかと感じた。

また、「言葉で人とつながり学ぶ力の育成」という研究テーマをより深めるためには、児童の語彙力を高めることが必要不可欠であると感じた。こういった場面でどのような言葉を使うと、自分の気持ちや考えたことがより伝わるのか、それを体感させるような授業を今後どの教科においても意識しながら指導をしていきたい。

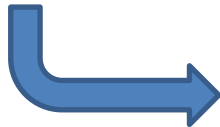
最後に6年間単学級で育つことの弊害をどのように取り払っていくのかも今後の課題と考える。本学級の児童も6年間同じ顔触れで育ってきたことにより、人間関係が固定化されていたり、友だちに対する先入観が邪魔をしてコミュニケーションがうまくできていないと感じた。今年は他の学校の6年生と交流することで、何か変化が見られないか取り組んだが、今後もこういった取組みが単学級の弊害を取り除くことができるか考えなければならない。

支援学級 取組み

1. 今年度の取組み

PBIS グッドモデルの取組み

学校全体で取り組んでいるPBIS（適切な行動を積極的に教え、ほめる取組み）のグッドモデルを支援学級でも取り入れた。掲示して終わりにならないよう、日頃の授業の中での言葉かけはもちろん、学期の始まりには全員で確認をおこなっている。



自立活動の取組み

昨年度まで毎週金曜日には全員が集って活動をおこなっていたが、今年度は教室ごとで集まる時間を増やした。個々の課題に応じた内容を集中して取り組む・ペアや小グループでゲームに取り組む・気持ちを伝え合う・発表する・ソーシャルスキルトレーニングなど様々な活動をおこなっている。



個別学習の充実

児童が見通しをもって個別学習に取り組むことができるように、課題の順番と内容を提示するシートを作成した。教科学習に傾倒するのではなく、巡回相談でのアドバイスやチェックリストの項目をもとに、自立課題の教具の充実も図り、実施できるようにしている。

2. 成果

- GOODモデルの取り組みをおこなうことで、こちらからの言葉かけはもちろん、子どもたち同士の言葉かけにも変化が見られた。良いおこないにスポットを当てることで、「自分もそうになりたい」「次はやってみよう」という子ども自身の前向きな意識の芽生えを感じることができた。また、藤城先生からのアドバイスを参考にし、文字だけではなく、内容に合ったイラストも用いた支援学級向けの掲示物を作成したことで、内容理解につながったように思う。
- 個別学習シートの形式を全教室で揃え、個々に応じて必要な内容を選択できるようにしたことで、それぞれの課題に応じた学習を進めることができた。何をすることが明確になり、見通しをもって終わりまで到達することができたように思う。
- 自立活動を各支援教室でおこなったことで、児童が落ち着いて課題に向き合う時間が増えた。授業で頻繁に顔を合わせるメンバーなので、学年が違ってもしっかりと安心感が強く、意見や思いを積極的に伝え合う場面が多く見られた。人数も少ないので指示が伝わりやすく、活動が円滑に進んだ。また、連絡帳を通して、活動のめあてや内容を保護者にも伝えることで、家庭でもふりかえりをおこなってもらえるようにした。

3. 課題

- GOODモデルは支援学級で初めての試みであったため、今年度は一学級のみでおこなった。次年度は教室移動も増加するので、どの支援教室にも共通することとして実施していきたい。様々な特性をもつ児童に向けて、どのようなモデルを共通して提示するかが課題である。
- 年度途中で個別学習シートの精査をおこなった。しかし、視覚的なシンプルさと内容理解とのバランスは今後も検討の余地があると思われる。また、個別の棚やパーテーションを計画的に購入するなどの学習環境の整備、自立課題教具のグループ分けや整理も必要である。
- 次年度は大きな転換期をおこなう。より充実した支援教育の実現に向けて、学校と保護者、支援学級担任と通常学級担任との連携を、これまで以上にきめ細かに図ることができるようしていきたい。

生活指導の取組み

1. 年間の取組み

1 楽しく安心して学校生活を過ごすために…学校規律・学級規律

- ・25のルール ➡ 月間児童会目標の設定に使用。朝の会で一つずつ読んでいく。
- ・安全で楽しい生活を送るためのきまり編と持ち物編を配付。
- ・学級集団づくりの取組み ➡ PBISに取り組む。SWPBIS、CWPBIS
- ・価値語の取組み ➡ 五中校区共通の取組み
「気になる東っ子」の継続
※月末に翌月の掲示内容に変更する。何気ない良行に目を向け、ほめていく。
※全校児童に目を向ける。

2 子どもの自主活動の充実…学年に応じた成長・役割

(児童会活動・委員会活動・学級活動)

- 委員会活動、児童会活動を支援する。
※人のために働く、学校のために働く(=勤労)意欲を育てる。
※委員会活動の見える化
➡放送集会や朝・昼休みの放送、アルコール・石鹼の補充、ボールの空気入れなど、活動場面を下級生に見せて、憧れを持たれるなど、自己肯定感・有用感を育てる。
- 学級においての自主的な活動を励行していく。
※自主・自立を支援できるものを各学級や学校全体で考え、取り組んでいく。

3 「いじめ・不登校・虐待・問題行動」の未然防止、早期発見・解決

- 鳥飼東小学校「いじめ防止基本方針」を遵守する。
※全教員が「いじめは許さない」という強い認識を持って同じ姿勢で児童への指導に当たる。
- 「SW(スクールワイド)PBIS」の継続。テレビモニターに流す。
ホームページにアップする等。
- 「学級PBIS」の取組みを全クラスで行う。

◆児童・生徒支援コーディネーター加配によるサポート

- ①学校全体の把握
- ②不登校・行き渋り傾向にある児童など課題を抱える児童が、楽しく学校生活を過ごす為の支援を進める。
- ③『どの子ども「安心・安全」に過ごせる教室へ』の支援
- ④問題行動を起こした児童への支援
- ⑤すこやか委員会の運営
- ⑥担任との交流、担任へのサポートとなるよう行動する。
(単学級で構成されている本校の状況から担任だけで悩みを抱えないように支援する)
- ⑦特別支援コーディネーター、SC、SSW、SSWS、養護教諭、管理職と情報共有・交流を図る。
- ⑧校内掲示板のコーナーを設置。全校児童の掲示をめざす。
- ⑨『学年別(1~6年生)の成長についての参考資料をまとめる。

- 【内容】
1. 学年の特徴
 2. 学年の担任の構えと指導
 3. 学年でつきたい力
 4. 学年の学級づくり・授業づくり

2. 成果

- ◆今年度、児童・生徒支援コーディネーターの加配がついたこともあり、状況に応じて、すこやか委員会、ケース会議を開くことができた。担任だけで問題を抱えることなく、いろんな対応、支援の仕方を考え、実行できた。SV、SC、SSW、SSWSなどいろんな方々の意見やアドバイスで選択肢を広げ、取り組むことができ、少しずつ回復の兆しが見えてきている。
- ◆問題行動に対しての聞き取りを行い易くなったが、年度途中欠員に対する教員の補充が無く、対応が厳しくなったものの、問題行動チャートに基づいて取り組むことができた。
- ◆行き渋りのある児童が、不登校へ変わった時、迅速にSCへつなぐことで、別室登校へ移行できた。
本校は教員数が限られているため、十分な体制は組めないが、週2回の登校の中で、少しでも教員と接する時間をつくることができた。

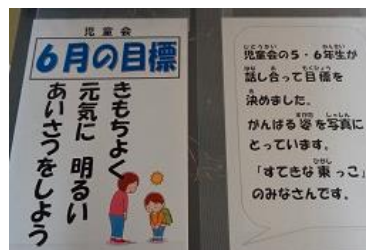
3. 課題

- ◆問題行動に対してのサポートで、保護者の協力を得られにくい地域であるため、改善に向かって、児童の家庭と一丸となってということは難しかった。
- ◆小規模校なので、「集団づくり(学級づくり)から自治へ」を目指し、1年生時から少しずつ系統立てて取り組んでいく必要がある。
- ◆学校全体で、5・6年生を巻き込んで、下級生に伝えられるような企画をつくる。例えば「〇〇教え隊」で、なわとび・鉄棒・一輪車・九九など休み時間にサポートできるチームをつくって活躍してもらおうなど。企画はあったが、なかなか実行に移せる余裕がなかったため、次年度につなげたい。

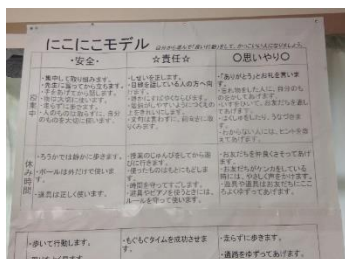
【児童会集会】



【SWPBIS】



【にこにこモデル(承認)】



【にこにこマグネット】



【学校掲示板】



国語科 学習指導案

摂津市立鳥飼東小学校
授業者 河合 香奈子

研究主題：「言葉で人とつながり学ぶ力の育成」～自分の考えを伝えよう
研究仮説：「学習活動の中で、自分の考えをもつ時間をつくり、それを友達と交流する」
ことによって、相手意識を深め学ぶ力を育てることができる。

1. 日時 令和4年10月11日
2. 場所 4年1組 教室
3. 学年・組 4年1組
4. 単元(題材)名 クラスみんなで決めるには(光村図書)

5. 単元(題材)の目標

- 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思A オ)
- 目的を意識して、日常生活から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思A ア)
- 比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。(知 イ)

6. 教材観

○本単元の重点指導事項は、学習指導要領における「目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。」である。本単元では、学級に関することについて、学級全体で話し合う活動を通して、合意形成のための話し合いの型を確かめるとともに、司会、提案者、参加者など、話し合いにおける自分の役割を意識しながら、議題に沿って話し合うことをねらいとしている。この時期の児童は、自我の発達に伴い、物事を自分たちの意思で決めたいという気持ちも芽生えてくる。自分たちで話し合って決める喜びや楽しさを味わうためには、ありきたりな「多数決」によるものではなく、十分に話し合い、互いの意見を交流し反対意見なども含めた上で、学級全体で決める流れが、全体で決めるという達成感につながるものであることを体感する必要がある。本教材の学習は、児童の実態に沿い、「話し合う」という活動を体験するためには必要な教材であると言える。

7. 児童観

本学年児童は男子20名女子10名で、活発な児童が多い。友達の良さを見つけたり、友達と一緒に過ごすことに喜びを感じたりする児童も多く、普段の学習でも、班活動やグループ活動も多くおこなってきている。ただ、自分の考えや思いを主張できる児童とできにくい児童の差があり、意見を伝えにくい児童は、自分の

考えではなく、友達の多数にのまれている傾向が強い。よって、話し合い活動の多くは、多数決で決まることが多く、十分に意見の交流ができないまますすめてきている。また、児童によっては、多数決の決定に不満を抱くこともあり、それは、全体で十分に納得できる話し合い活動が行われていないという結果であるとも言える。

8. 指導観

指導にあたって 研究テーマに向けての取組み

本学年児童は、これまでもグループ活動や実行委員を中心としたクラス全体の活動を行うための話し合い活動を何度も経験している。話し合いに役割分担などが必要であることは理解しているものの、その役割がどのような発言を行い、どのような記録をすればよいのかにおいては、まだ十分に理解して行うことができていない。今回の話し合いは、話し合いモデルを作成するという目的をつくり、最終段階では、そのモデルに沿って、11月に実施予定をしている、2年生との交流会について、どのようなプログラム内容が良いかについて、全体で話し合う活動を行うことにする。

指導にあたっては、一部の児童の意見や多数決で決めるのではなく、客観的な基準に従って多くの人が納得できるような話し合いにしていくことが大切であることを児童自身が気づいていく流れが必要と考える。そのため最初に、日常の中で「話し合いがうまくいなくて、こまった経験や、すぐにじゃんけんなどで決めたり、強い人の声で決まったりして嫌な思いをした経験がある。」といったような課題意識を想起させるアンケートを実施する。それにより、話し合いの決定で必要なことが、「多数決」ではないことを意識させる。次に、学級全体で話し合う活動の前に、別内容で、小グループどうしの話し合い活動を行い、その活動を通して、話し合い活動としての良い点と、工夫したほうが良い点をそれぞれ見つけ出し、発言や話し合いの仕方について考える時間をつくる。また、この小グループの話し合いの際に、話し合いをまとめるためには、意見の共通点や相違点を整理したり話し合いの目的と関連付けたりする司会者の役割と、記録をつけておく必要性に気付かせる。自分たちの話し合う様子を動画で視聴し、自己評価や相互評価をすることで、発言者や進行役で大切なことをまとめる。最後に、4年1組話し合いモデルの大枠を作成し、話し合い活動は、国語科のみではなく、他教科多方面で行われるものであることを意識できるようにする。

本校の研究テーマである「言葉で人とつながり学ぶ力の育成」～自分の考えを伝えようでは、相手意識を持たせる活動を行うことが必要である。この話し合い活動は、話し合いは相手の意見があつてこそ、考えや意見が広がり、よりよい内容に導くものであることを体験できるものと考え。

9. 本単元の学習の関連と発展（単元の系統について）

- 1年「これは、なんででしょう」 : 二人で話し合う
- 2年「そうだんにのってください」 : 考えを出し合い、話し合う
- 3年「山小屋で三日間すごすなら」 : (対話) 考えを広げたり、まとめたりする話し合い
「はんで意見をまとめよう」 : 話し合いの目的や進め方 自分の役割
- 4年「あなたならどう言う？」 : (対話) それぞれの立場による、考えや感じ方の違い
「クラスみんなで決めるには」 : 司会や参加者の役割に沿った発言や進行の仕方
- 5年「どちらを選びますか」 : (対話) 二つの立場の違いを明確にする
良い点と問題点を考える
- 「よりよい学校生活のために」 : 立場の違いを明確にして、計画的に話し合う
- 6年「いちばん大事なものは」 : (対話) いろいろな考え方を聞いて、自分の考えにいかす
「みんなで楽しく過ごすために」 : 目的や条件に応じて、計画的に話し合う

10. 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考力・判断力	学びに向かう力
・比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解して使っている。(2)イ	・目的や進め方を確認し、役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(1)オ ・目的を意識して、日常生活の話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(1)ア	・学習の見通しをもって、進んで話し合いに必要な役割を果たしながら話し合い、考えをまとめようとしている。

11. 単元の指導と評価の計画

	主な学習活動	教師の指導・支援	評価と評価方法
1	○学習の流れを知り、話し合い活動に必要な役割について考えよう。 ・学習の流れをつかむ ・話し合いに必要な役割について考える。 ・それぞれの役割が何を行う役割なのかについておさえる。	・これまでの話し合いの経験について意見を交流。(事前アンケート) ・前学年までに、話し合い活動を行う際に学習したことを想起させる。	【関・意】 観察・発言
2 3	○動画を見て、話し合いに必要なことをおさえよう。 ・これまでの自分達の話し合いの動画を視聴する。 ・役割の働きについて振り返る。 ・話し合いの仕方の動画を視聴する。 ・自分たちの話し合いとの違いについて考える。 ・小グループ話し合い活動のための役割分担を行う。(2グループに分ける)	・役割の働き、発言の仕方など、ポイントを押さえながら視聴させる。 ・ポイントを押さえて視聴させる。 ・違いを見つけ、良い話し合いに必要なことを考えさせる。 ・小グループで、話し合いを行うことを伝える。	【思・判】 ワークシート 発言

4	<p>○議題に沿って、話し合ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割と議題を確認する。 <p>議題『ろう下を歩くきまりを守るために、どのような取り組みをするか』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ議題で、別教室に分かれて話し合う。 ・話し合いの自己評価を行う。 ・各グループで、決まったことを報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの大まかな流れを全体で共有する。 ・教師が撮影を行い、活動には、口を挟まない。 ・役割の担当だった児童は、役割の大変さや困ったことを記入させておく。 ・決まることが大切ではないことをおさえる。 	<p>【知・技】</p> <p>ワークシート</p> <p>【思・判】</p> <p>授業の様子</p>
5	<p>○各グループの話し合いを見て、良い点と工夫が必要な点を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の話し合いの様子を視聴する。 ・話し合いの様子から、良い点と工夫が必要な点を、個人で考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントを絞って視聴させる。 <p>(◎発言者の伝え方・役割の活動の仕方・決め方)</p>	<p>【思・判】</p> <p>ワークシート</p> <p>発言</p>
6 (本時)	<p>○役割ごとに、大切なポイントをまとめていこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割の担当だった児童は、困ったことや大変だったことを伝える。 ・役割ごとに、改善が必要なことは何かを考え、交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫及び改善が必要な点が何かをおさえる。 ・それぞれの立場ごとに、伝え方や進め方について交流させる。 	<p>【思・判】</p> <p>ワークシート</p> <p>発言</p> <p>【関・意】</p> <p>授業の様子</p>
7	<p>○工夫や改善が必要な点について考え、話し合いモデルを作成しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動の役割と、その役割の活動ポイントを共有する。 ・工夫や改善について、意見を出し合う。 ・話し合いモデルを全体で仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割として必要なことや、伝え方、意見の出し方についてモデルを考えさせる。 	<p>【思・判】</p> <p>発言</p>
8	<p>○話し合いモデルを使って話し合いをしてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議題「2年生との交流で、何をするか」について、話し合いモデルに沿って話し合う。 ・自己評価を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いモデルを提示して、全体で活動を行うことを確認する。 	<p>【知・技】</p> <p>ワークシート</p> <p>【思・判】</p> <p>授業の様子</p> <p>発言</p>

12. 本時の展開

(1) 本時の目標

○話し合い活動を進めるために、それぞれの役割に応じた進め方や伝え方について考える。

(2) 本時の評価規準

○話し合い活動の、役割に沿った進め方や伝え方について考え、よりよい話し合いの工夫を考えている。

(3) 本時の判断基準

よくできる	できる	支援を必要とする児童への対応
・話し合い活動における、それぞれの役割の働きについて理解し、その働きに応じた言葉の使い方の具体的な良さや悪さを見つけて、改善策を考えている。	・話し合い活動における、それぞれの役割の働きについて理解し、言葉の使い方について、伝え方の工夫を考えている。	・役割ごとの内容を表にしたものを提示し、役割ごとに、良いと思うかを考えさせ、そのことについて、どのように伝えたら良いかを考えられるようにする。

(4) 本時の展開 (6/8)

流れ	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価 (評価方法)
	・前時までの活動を振り返る。	・自分たちの話し合い活動で、役割ごとに活動したことを確認しておく。	
展開 (三十五) 分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">○役割で必要なことや改善することを伝え合い、まとめ</div> ・前時の個人ワークシートから、それぞれの役割ごとに、良い点と改善点を伝え合う。 ①司会担当だった児童は、困ったことや大変だったことを伝える。 ②参加者は、発言の仕方や話し方、言い方が分からない時の状態を伝える。 ・役割ごとに、改善が必要なことは何かを考え、交流する。 ・	・役割ごとに、良かった点(必要だと思える点)と改善・工夫が必要な点を書きだしていく。 (●司会 ●発言者) ・なぜ困ったのか、大変だったのかを伝えさせる。 ・どのような改善をすればよいのか、具体的に発言させる。	【思・表】 ○話し合い活動の役割に沿った進め方や伝え方について考え、よりよい話し合いの工夫を考えている。 (ワークシート・発言)
まとめ	・本時の振り返りをする。	・話し合い活動で、気づいたこと、分かったことを振り返る。	

算数科 学習指導案

摂津市立鳥飼東小学校

授業者 藤本 知世子

研究主題：「言葉で人とつながり学ぶ力の育成」～自分の考えを伝えよう～

研究仮説：「学習活動の中で、自分の考えをもつ時間をつくり、それを友達と交流する」ことによって、相手意識を深め学ぶ力を育てることができる。

1. 日時 令和4年12月9日(金) 第6校時(14:15～15:00)

2. 場所 6年1組教室

3. 学年・組 第6学年1組(23名)

4. 単元(題材)名、学年 「比例の関係をくわしく調べよう」(6年)

5. 単元(題材)の目標

比例や反比例の関係について理解し、伴って変わる2つの数量やそれらの関係に着目し、表や式、グラフを用いて変化や対応の特徴を見出して2つの数量の関係を考察する力を養うとともに、比例や反比例の関係を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。

【知識・技能】 比例や反比例の意味や性質、表やグラフの特徴について理解し、比例や反比例の関係にある2つの数量の関係を表や式、グラフに表したり、比例の関係をj用いて問題解決することができる。

【思考・判断・表現】 伴って変わる2つの数量を見出して、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して変化や対応の特徴を見出して問題解決に活用している。

【態度】 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用している。

6. 教材観

本単元で扱う比例と反比例は、学習指導要領には以下のように位置づけられている。

第6学年 C 変化と関係

(1) 伴って変わる2つの数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること

(ア) 比例のj関係の意味や性質を理解すること

(イ) 比例のj関係を用いた問題解決の方法について知ること

(ウ) 反比例のj関係について知ること

イ次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること

(ア) 伴って変わる2つの数量を見出して、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して、辺や対応の特徴を見出すとともに、それらを日常生活に生かすこと

これまでに児童は 5 年生で伴って変わる 2 つの数量の関係について、一方が 2 倍、3 倍…になれば、それに伴って他方も 2 倍、3 倍…になるという変化の決まりを表から見つけ、そのような関係を「○は□に比例する」と表現することを学習してきた。6 年生では、こうした学習を基に、比例についてさらに考察を深める。表やグラフを作成し、そこから考察を深めていきたい。本単元では反比例も学習するが、比例と同じように考察していくことで、比例と反比例の違いを明確にしたり、関数的思考を伸ばしていく。表では、横に見ることによって「変化のきまり」が見えてくる。一方表を縦に見ることによって「対応のきまり」が見えてくる。これが、「比例、反比例の性質」へとつながり、「式」へとつなげる。グラフでは、グラフに表したり、グラフから読み取ったりする活動を通して、関数的な見方、考え方につなげていったり、グラフの形を確認し「比例、反比例の性質」へとつなげていきたい。また、これら学習した内容を、算数的活動として、身の回りの事象につなげ、比例の関係をを用いて問題解決を行う良さを味合わせたい。

7、児童観

今年度の全国学力・学習状況調査の結果より本校の 6 年生児童の実態を考察すると、算数においては、求め方や量と数字との関係性などの説明をする力、説明や立式をするための過程などを選択する力が弱いことがわかる。そこで、できるだけ単元の中で、公式や結果だけでなく過程を大切にしたり、説明したりする活動を取り入れるようにしてきた。

また、意欲的に考え主体的に取り組むには、机上の問題ではなく、自分の身の回りの事象と結びつけて考えられる課題に取り組むことが効果的ではないかと考えた。例えば「拡大図と縮図」の学習では、実際に本校の校舎の高さを出したり、修学旅行先の距離を出すなどを題材として取り入れた。「およその面積」では市内 4 校の小学校の運動場の面積を出し比べる活動を行った。これらの活動は、算数の学習が日常生活に役に立つものだ実感しながら主体的に活動していた題材である。

考えを説明することは、まだまだ一人では自信がなくてできない子どもがすくなくないため、グループで問題解決の方法を考えることを行ってきた。相手にわかりやすくホワイトボードに書いたり、説明することは少しはできるようになってきたが、一人で発表したり全体に広げていくところで、不安に思ったり躊躇してしまう子どもは未だに少なくない。まだまだ自分に自信がなく、またどのように伝えたらいいのかも困ってしまう子どもが多い。そのような子どもたちの不安をどのような形で取り除いていくかも、教材研究の一つとして考えてきた。今回の単元でも大切なことをその都度確認しながらいねいに進めていき、子どもが自信を持って取り組めるようにしていきたい。

8、指導観

(1) 指導にあたって

本単元は、前学年で学習したことをさまざまな角度からの考察によりさらに深めていくという単元である。したがって、子どもたちの活動を中心としながら、子どもたち自身が見つけたり、考察していく中で理解を深めていきたいと考える。そのために、単元計画から大きく見直しをし教科書とは違う流れで進めて行くこととした。

まずは身の回りの「伴って変わる 2 つの量」を探すことから始める。子どもたちは「伴って」や「量」の意味を確実に理解していない。「量」とは何か、また見つけた量に対しどのように変化しているかを確認することで「伴って変わる量」の意味を丁寧に抑えこの単元の基としたい。つぎに、表、式、グラフから決まりを見つけ「比例の顔」として、比例について定義づけをする。表においては「変化のきまり」が見えてくる横の見方、「対応のきまり」が見えてくる縦の見方と 両方の見方がしっかりできるようにしたい。グラフにおいては、初めは一つずつ点を打ってグラフを作成するが、作成していく中で、点を打っていないところもこうつながる。グラフの先はきっとこうなるだろうと予測させたり、XとYの関係をグラフから読み取ったりしながら、関数的な見方を育てたい。

次に定義づけをした「比例の顔」を基礎に、身近な事象での問題解決をはかりたい。その時に比例のどのよう

な性質が問題解決に役立つのか、しっかり確認しながら進めていきたい。身近な事象の問題解決に取り組ませることで、身の回りに比例関係がたくさんあることにも気づかせていきたい。

反比例も同様の活動を行うが、それまで学習した「比例」と対比させながら進め比例と反比例の違いを明確にしていく。

(2) 研究テーマ向けの取組み

主体的に課題に関わることができるよう、身近な題材を導入にするとともに、自分で考え、見つける時間を確実に保障する。自ら課題に向き合い、自ら対話する時間ともなるからである。次に、自分の考え、見つけたことを全体で交流する。その中で、違う表現でも自分と同じ考えかどうか考えたり、友達の考えを付けたしたり、言い換えたりしながら考えを深めていく。また自分では考え付かなかった考えを聴くことで自分の考えを広げていくことができる。と考える。

算数の学習では、ふり返りを大切にしてきた。ふり返りは学習内容により変化させてよいものと考えている。たとえば、①その日学習したことをまとめる。②自分の考えを書く。③演習課題に対する解答や説明を書く。など。子どもたちのふり返りを、次時の導入として用いることも行う。ふり返りは、自分の思考を深めたり広げたりするだけでなく、子どもたちの言葉で授業を創りあげていく一つのツールになると考えている。

また、本時では「情報過多」を設定している。「多くの情報の中から、必要なものを考え、選ぶ」ためには、自分の考えを伝え合うことが必然となり、主体的に言葉で伝え合う機会を作ることになるからである。

8、単元(題材)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・比例の関係の意味や性質を理解している。・比例の関係をを用いた問題解決の方法について知っている。・反比例の関係について知っている。	<ul style="list-style-type: none">・伴ってかわる二つの数量を見出して、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてその関係を表現して、変化や対応の特徴を見出しているとともに、それらを日常生活に生かしている。	<ul style="list-style-type: none">・伴って変わる二つの数量について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしている。

9、単元の指導と評価の計画

時	学習内容	主な評価規準【観点】
第1時	伴って変わる2つの数量を見つけ、比例の関係を理解する。	<p>⑧◎伴って変わる2つの量に関心を持ち、そこから比例の関係を 見つけようとする。(観察、ノート)</p>
第2時	比例の関係を表にし、きまりを見つけるとともに、比例の関係を式にする。	<p>⑧◎比例の関係を表や式に表すことができる。(ノート) ⑨○表から比例の関係を考えている。(ノート、発表)</p>
第3時	比例の関係をグラフに表し、比例のグラフの特徴を理解する。	<p>⑧◎比例のグラフの特徴について理解している。(ノート、発表) ⑧◎比例の関係をグラフに表すことができる。(ノート) ⑨○比例の特徴について、式、表、グラフの観点からまとめ、 表す。(ふり返り)</p>
第4時	比例のグラフを活用し、問題解決をする	<p>⑧○グラフから読み取ったことを用いて、問題解決しようとして いる。 ⑧◎傾きの異なる2本の比例のグラフから特徴や事象の様子 などを読み取ることができる。(ノート)</p>
第5時 (本時)	比例の性質を活用し、問題を解決する。	<p>⑨◎比例の関係にある2つの数量を見つけ、比例の性質を問 題の 解決に用いることができている。(ノート、発表) ⑧○問題を解決するために、必要な情報を選択し、問題を解決 しようとしている。(ノート、観察) ⑧○伴って変わる2量の比例関係を理解している。(ふり返り)</p>
第6時	練習(比例の関係を使った問題)	⑧○学習内容を適用して、問題を解決することができる。
第7時	反比例の意味について理解する。	⑧◎2つの量の変り方に興味を持ち、表を使ってその関係を 調べようとしている。(ノート、観察)
第8時		⑧◎反比例の意味を理解している。(ノート) 反比例の関係を表や式に表すことができる。(ノート)
第9時	反比例の関係をグラフに表し、特徴を理解する。	⑧◎反比例の関係をグラフにしたり、グラフから読み取ったりす ることができる。(ノート、発表)
第10時	反比例について、表、式、グラフの観点からまとめる。	<p>⑨◎反比例の特徴について、式、表、グラフの観点からまとめ、 表す(ノート) ⑧◎反比例の特徴を理解している。(ノート、観察)</p>
第11時	Xが増えるとYが減る関係でも、反比例ではない関係があることを、グラフで理解する。	⑧○反比例の理解を深める。
第12時	たしかめよう	⑧○学習内容を適用して、問題を解決することができる。
第13時	「テスト」	⑧◎学習内容が理解できている。

◎記録に残す評価…全員の評価の機会とする観点 ○指導に生かす評価…それを補完する評価の機会

10. 本時の展開

(1) 本時の目標

日常事象の問題を、比例の性質を用いて解決する。

(2) 本時の評価規準

㊦ 問題を解決するために必要な情報を選択し、問題を解決しようとする。

㊧ 比例の関係にある2つの数量を見つけ、比例の性質を用いて解決方法を考える。

(3) 本時の判断基準

十分満足できる	おおむね満足できる
<p>㊦ 情報を整理し、理由を明確にして、必要な情報を選択しようとしている。</p> <p>㊧ 比例の関係にある2つの数量を見つけ、比例の性質を用いて解決し、それを表現している。</p>	<p>㊦ 必要な情報が何かを考え、選択しようとしている。</p> <p>㊧ 比例の関係にある2つの数量を見つけ、解決方法を考えている。</p>

(4) 努力を要する子どもへの具体的な支援

見通しの段階で、たくさんある情報を量の観点から、整理し、比例の関係になっているものを見つけやすくする。また、グループ解決をする中で、友達の意見を聞き、一緒に解決する。

(5) 本時の学習過程

流れ	学習内容・学習活動 子どもの意識の流れ	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 2分	<p>○貯金箱を見せ、今日の課題を確認する。 (不定期に500円貯金をしているが、いくら貯まったかわからない。いくら貯まったか知りたい。)</p>	<p>本時の学習活動の内容を明確にする。</p>	
見通し 10分	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">貯金箱の金額はいくらでしょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・貯金箱にはいくら入っているのかなあ。 ・たくさん入っていきそうだな。 ・どうやったらわかるのかなあ。 </div> <p>○いくつかの情報を提示する。 (情報過多)</p> <p>①500円玉の直径 26.5 mm ②今の貯金箱の重さ 637g ③貯金を始めた月 4月 ④はじめの貯金箱の重さ 490g ⑤500円玉1枚の重さ 7g ⑥貯金をはじめてから今日までの月 20か月 ⑦目標の貯金額 30,000円</p>		

<p>自力 解決 3分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん情報があつて、どれを使えば調べられるか分からない！ ・関係ないものと、関係ありそうなものに分けよう。 ・金額が知りたいんだから、500円玉の枚数がわかればいいんじゃないかな。 ・枚数を知るためには、500円玉の重さが分かれば… 	<p>金額を知るためには、500円玉の枚数が分かればいいことに気付かせる。</p> <p>枚数を知るためにはどの情報が必要かを考えさせる。その時に、</p> <p>伴って変わる2量に着目させ、比例とつなげる。</p> <p>比例の考えが出てきた時に、丁寧に確認する。</p>	<p>⑧問題を解決するために必要な情報を選択し、問題を解決しようとしている。(ノート、観察)</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>この中の情報を使って、500円玉の枚数を求めよ</p> </div> <p>○自分なら、どの情報を選ぶか考え、ノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は②と⑤を選びます。 ②÷⑤をしたら、枚数がでてくると思うからです。 ・私は、②、④、⑤を選びます。②-④をしないと、貯金箱の重さまで入ってしまうから。 		

<p>12分</p>	<p>○グループ解決 (グループ解決の進め方) 1、自分の考えをグループで 交流する。 2、必要な情報を選択し、問題を 解決する。</p>	<p>まずは意見をしっかり交流す るよう、グループを回って声を かける。</p> <p>解決方法には、図や式、表な どを積極的に用いるよう声を かける。</p> <p>T1、T2で子どもたちの考えを 見取り、全体で交流したい考 えをチェックしておく。</p> <p>いくつかの考えを黒板に書か せる。</p>	<p>⊗ 比例の関係に ある2つの数 量を見つけ、 比例の性質を 問題の解決に 用いることが できている。 (ノート)</p>																																																																
<p>交流 13分</p>	<p>○解決方法を交流する。</p> <p>Ⓐ $637g - 490g = 147g$</p> <p>$147g \div 7g/\text{枚} = 21 \text{ 枚}$ $21 \text{ 枚} \times 500 \text{ 円} = 10,500 \text{ 円}$</p> <p>ⓐ</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">× 2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="2" style="text-align: center;">┌──────────┐</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="2" style="text-align: center;">1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">14</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">21</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">28</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">14</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">21</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">28</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">21</td> <td colspan="2" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">147</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="2" style="text-align: center;">└──────────┘</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="2" style="text-align: center;">× 2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="2" style="text-align: center;">1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			× 2								┌──────────┐								1						1	2	3	4	7	14	21	28	7	14	21	28	21	147					└──────────┘								× 2								1						<p>Ⓐ、ⓐ以外の考え方、求め 方があれば、それも全体で確 認する。</p> <p>子どもの言葉で説明させる。</p> <p>友達の考えが理解できている か、丁寧に確認する。</p>	
		× 2																																																																	
		┌──────────┐																																																																	
		1																																																																	
1	2	3	4	7	14	21	28																																																												
7	14	21	28	21	147																																																														
		└──────────┘																																																																	
		× 2																																																																	
		1																																																																	

<p>振り返る 5分</p>	<p>㉔ $637g \div 7g/\text{枚} = 91 \text{ 枚}$ $500 \text{ 円} \times 91 \text{ 枚} = 45,500 \text{ 円}$</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ ㉓と同じ考えだ。 ・ ㉔の表を私も使ったよ。 ・ ㉕だけ答えが違うよ。 <p>どっちが正しいのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろんなやり方があるけど、比例の関係を使っているところは同じだな。 </div> <p>○貯金箱に入っているお金の確認。</p> <p>○ふり返り</p> <p>㉖ (本時の課題に対するふり返り)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 500 円玉の 1 枚の重さと枚数が比例の関係になっているとわかった。 ・ 関係ない情報もある。 </div> <p>㉗ (情意面のふり返り)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比例の関係はいろいろなところにあるんだなあ。 ・ 友達の意見を聞いてわかった。 ・ ○○さんの説明がわかりやすかった。 </div>	<p>㉕の考えが出た場合、全員で考える時間を取る。</p> <p>いろいろな考えの共通点を見つける。⇒「比例」の考えをどこで用いたかを確認する。</p> <p>金額が分かるためには⇒ 500 円玉の枚数が必要⇒ 500 円玉と、貯金箱の重さを抜いた全体の重さが必要だったということを整理し、確認する。</p>	<p>㉘ 自分の考えを自分の言葉で伝えようとしている。(発表) 友達の考えを聴き、理解しようとしている。(観察)</p> <p>㉙ 500 円玉の重さと枚数の比例関係を理解している。</p>
--------------------	---	--	---

生活科 学習指導案

摂津市立鳥飼東小学校

授業者 白石りょう

研究主題：「言葉で人とつながり学ぶ力の育成」～自分の考えを伝えよう～

研究仮説：「学習活動の中で、自分の考えをもつ時間をつくり、それを友達と交流する」ことによって、相手意識を深め学ぶ力を育てることができる。

1. 日時 令和5年2月14日(火) 第5校時(13時25分～14時10分)

2. 場所 1年1組教室

3. 学年・組 1年1組22名(男子:13名、女子:9名)

4. 単元(題材)名 もうすぐ2年生(使用図書:啓林館)

5. 単元(題材)の目標

入学してからの1年間を振り返り、自分たちの生活を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることの良さや楽しさ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどがわかるとともに、進級する喜びやこれからの成長への願いをもって意欲的に生活できるようにする態度を養う。

- 【知識・技能】
- ・身近な人々と関わることの良さや楽しさに気づくことができる。
 - ・自分が大きくなったこと・できるようになったことに気づくことができる。
- 【思考力・判断力・表現力】
- ・相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりする。
- 【態度】
- ・進級する喜びやこれからの成長への願いをもって意欲的に生活しようとする。

6. 教材観

本単元は、新学習指導要領の内容のまとまりに示された内容(8)生活や出来事の伝え合いと内容(9)自分の成長を受けて設定したものである。それまでの生活や出来事を思い浮かべ、過去の自分と現在の自分を比較することで、自分自身の生活や成長を見つめ直し1年間を振り返っていく。そうして自分自身の成長や変容について考え、自分自身についてのイメージを深め、自分のよさや可能性に気付かせたい。また、1年間の出来事を新1年生に動画を撮って伝える活動を行うことで目的意識や相手意識を持たせて活動させていきたい。

7. 児童観

本学級では、生活科を通して、4月から学校探検・生き物や自然の観察、季節の様子、家庭生活での役割について学習を行ってきた。生き物や自然の観察、季節の様子単元では、もっとくわしく見たい。知りたい。と自分からすすんで学習に取り組む姿が見られた。また、家庭生活での役割について学ぶ単元では、初めて「相手」に目を向け、家族がしてくれていることなどに気づく姿が見られた。しかし、日々の学校生活の中では、自分の気持ちやしたいことを相手に押し付けたり、自分のタイミングで物事を進めたりと自分のことを中心に行動する児童が多い。そのため、今回の学習では、「新1年生」の立場に立って考えることを確認しながら進めていきたい。

また授業において見通しが持てないと、不安感から進んで学習できない児童が少なくない。そのため、単元の計画や1時間に学習することを児童と共有し、見通しを持たせながら進めていきたい。

8. 指導観

第1・2時の自分自身の生活や成長を振り返る活動では、1年生の児童にとって頭の中だけで振り返ることは難しいため、具体的な手掛かりが必要である。そこで、それぞれの児童が自分の成長を振り返る手掛かりとして入学当初に書いた自分の名前や絵、1学期から作成していた行事カード、写真などを用意し、自分自身の成長や変容に気づけるようにしていく。どの時点から自分の成長を振り返るかは、児童によって異なる。大切なのは、自分の成長を実感できることであるため、一律に過去から順にたどることではない。こうした観点を意識して指導していく。

第4・5時では、2年生の「できるようになったこと発表会」に参加する。この活動を通して最終ゴールである新1年生への発表を具体的に想像し、自分たちの発表につなげていきたい。本学年は、1学期から2年生と交流する時間を多く設けてきた。その1年生にとって身近な2年生の発表を見ることで、「自分も2年生の発表のこんなところをまねしたい!」「2年生に負けないようないい発表会にしたい!」など、自分なりの思いを持たせたい。

第6時では、2年生の発表を参考にしながら、新1年生にとってどんな発表方法が適切かを考え、選んでいく。その時に、2年生がどんなことを考えながら、発表方法を選択したのかを資料から読み取る活動を入れ、相手意識を持って、自分の発表を考えることができるようにしていきたい。

第7時から第11時では、自分自身のできるようになったことを発表形式にまとめる学習に入っていく。ここでは第4・5時で参加した2年生の発表を参考にしながら、言葉、絵、動作など自分なりの方法でまとめていく。その際に伝える相手は新1年生であることを毎時間確認していきたい。今回の発表は、時間をかけて完成度の高いものにしたいと考えたため、まとめる時間と練習の時間を合わせて5時間設定している。新1年生のことを思い浮かべたり、どうしたら伝わるかを試行錯誤したりしながら自分の発表をよりよいものに仕上げていく。その過程こそが相手意識につながると考える。

第13時では発表会をふりかえり、この活動を経て自分がどのように成長したかを考えていく。

第14・15時では、2年生に進級する上での目標や思いを考えていく。実際に2年生に学習内容やがんばったことなどをインタビューし、より身近にイメージできるようにする。その活動を踏まえて、進級する喜びやこれからの自分自身の成長への願いを持てるようにしていきたい。

研究仮説『「学習活動の中で、自分の考えをもつ時間をつくり、それを友達と交流する」ことによって、相手意識を深め学ぶ力を育てることができる。』にあるように、本単元では、自分の成長について自分で考える時間を十分に設けていく。今までであれば、ペア活動・クラス全体で自分の考えのみを交流する流れで行ってきた。しかしこの単元では、来年度の新1年生に学校を紹介する動画を作成することを最終ゴールに置いているため、相手のことを思い浮かべたり、相手の立場を気かけたりすることが重要である。そのために伝えたいことが相手に伝わるかどうかを判断して伝える内容や伝える方法をペアや班・クラス全体で決めていく活動を行う。このような活動を通して、目的意識や相手意識を深めさせていきたい。

9. 本単元の学習の関連と発展（単元の系統について）

1年生 もうすぐ2年生



2年生 これまでのわたし これからのわたし

10. 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどがわかる。	自分たちの生活や成長を伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりする。	自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、これからの成長への願いを持って意欲的に生活しようとする。

11. 単元の指導と評価の計画

時	学習内容	主な評価規準【観点】・(評価方法)等
第1時	学習の見通しを持つ。 入学してからの1年間の活動や行事などを友だちとともに振り返る。	【態度】自分自身の成長に関心を持ち、自身の成長を振り返ろうとしている。(行動観察・発表)
第2時	入学してからの自分自身の成長を振り返る。 (からだの成長)	【態度】自分自身の成長に関心を持ち、自身の成長を振り返ろうとしている。(行動観察・発表)
第3時	自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、できるようになったことをまとめる。	【知・技】自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどに気づいている。(ワークシート)
第4時 ・ 第5時	2年生のできるようになったこと発表会をみる。	【態度】すすんで2年生のできるようになったこと発表会を見ている。(ワークシート)
第6時 (本時)	できるようになったことを新1年生に伝えるための方法を選ぶ。	【思判表】自分たちの生活や成長を伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりしている。(ワークシート)
第7時 ・ 第8時	自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、できるようになったことを1つ選びまとめる。	【思判表】自分たちの生活や成長を伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりしている。(まとめたもの)
第9時	できるようになったことを新1年生に伝えるためには、どのように工夫したらいいか考え、発表の練習を行う。	【思判表】自分たちの生活や成長を伝え合う活動を通して、相手に伝わるように発表の練習をしている。(練習の様子)
第10時	できるようになったことを新1年生に伝えるためには、どのように工夫したらいいか考える。	【思判表】自分たちの生活や成長を伝え合う活動を通して、相手のことを想像して、発表の工夫を考えている。(練習・ワークシート)
第11時	できるようになったことを新1年生に伝えるためには、どのように工夫したらいいか考え、発表の練習を行う。	【思判表】自分たちの生活や成長を伝え合う活動を通して、相手に伝わるように発表の練習をしている。(練習の様子)
第12時	できるようになったことを動画撮影する。	【思判表】自分たちの生活や成長を伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりしている。(動画)
第13時	新1年生への動画づくりの振り返りを行う。	【態度】自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、これからの成長への願いを持って意欲的に生活しようとしている。(ふりかえり)
第14時	2年生へのインタビューを行う。	【態度】自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、これからの成長への願いを持って意欲的に生活しようとしている。(インタビューの様子)
第15時	2年生に進級する上での目標等を考える。	【態度】自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、これからの成長への願いを持って意欲的に生活しようとしている。(ワークシート)

12. 本時の展開

(1) 本時の目標 (第5時)

- ・できるようになったことを新1年生に伝えるための方法を選んで、交流する。

(2) 本時の評価規準

- ・自分たちの生活や成長を伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりしている。
- ・自分が考えたことを交流する。

(3) 本時の判断基準

A 十分に満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する児童への支援
自分でできるようになったことなどについて新1年生に伝える発表にするためには、どんな発表の方法が良いか考え、理由も添えて、ワークシートに書いている。	自分でできるようになったことなどについて新1年生に伝える発表にするためには、どんな発表の方法が良いか考え、ワークシートに書いている。	班活動を頻繁に入れる。 2年生の資料を提示する。
理由も含めて、相手に伝えている。	自分の考えを相手に伝えている。	視覚支援を行う。

(4) 本時の展開

流れ	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価 (評価方法)
導入	2年生の発表会からどんな発表の方法があったか整理する。 めあてを確認する。	2年生の発表を短くまとめた動画・写真を用意し、思い出させる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> できるようになったことや せいちょうしたことを はっぴょうする ほうほうを かんがえて、ともだちに つたえよう。 </div>		
展開	自分の発表はどの方法で行うか決め、ネームプレートを黒板に貼る。 決めた理由について、交流する。 2年生がどのようにして、その方法を選んだのか知る。 もう一度選び、理由を記入する。 全体で共有。	黒板に発表の方法を掲示する。 班で活動し、意見を持たない児童も参加できるようにする。 2年生の発表の方法を選んだ理由についてまとめた資料を班に配布し、参考にできるようにする。 人に何かを伝えるときには、相手意識が大切ということに気づかせる。	【思判表】 自分たちの生活や成長を伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり、伝えたいことや伝え方を選んだりしている。(ワークシート) 【思判表】 自分の考えを相手に伝えている。(授業観察)
まとめ	次回予告 振り返りをする。	次回から、発表会に向けて準備していくことを伝える。	

